



## 取扱説明書

### ■レシプロオイルフリーコンプレッサ

# ***Oilfree***

タンクマウント形 (TFP)

TFP15CF-10    TFP55CF-10

TFP22CF-10    TFP75CF-10

TFP37CF-10    TFP110CF-10

このたびは、レシプロオイルフリーコンプレッサをお買いあげ  
いただきありがとうございました。

- ご使用前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。
- お読みになった後は、本書を手近な所に保管しご活用ください。

※下表の空欄に必要事項をご記入ください。  
修理・サービスの際に必要となります。

形 式 MODEL	
製造番号 SERIAL NO.	
購 入 先	
購入年月	年      月      日
使用開始日	年      月      日

# 残留リスク

## ■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称：残留リスクマップ)




製品形式：「TFP15CF-10 TFP22CF-10 TFP37CF-10 TFP55CF-10 TFP75CF-10 TFP110CF-10」

2015年05月25日 作成

アネスト岩田株式会社

※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

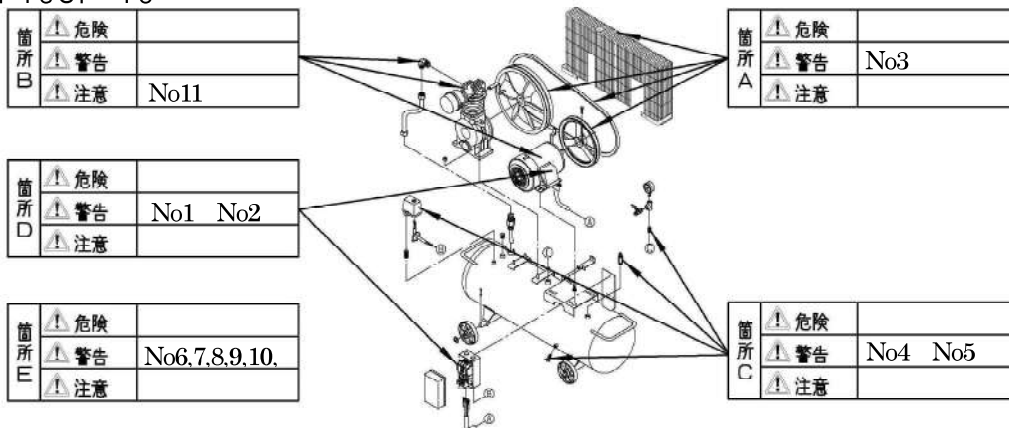
残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・  危険：保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・  警告：保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・  注意：保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

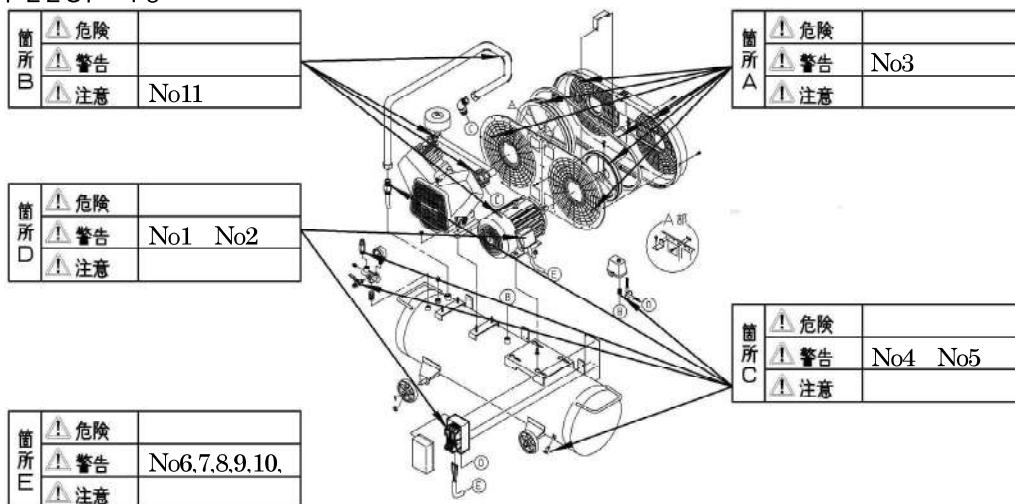
図中に示されている箇所の記号及び番号は、本製品の「残留リスク一覧」に記載されているものと一致している。

各々の残留リスクの詳細については、「残留リスク一覧」を参照のこと。

### TFP15CF-10



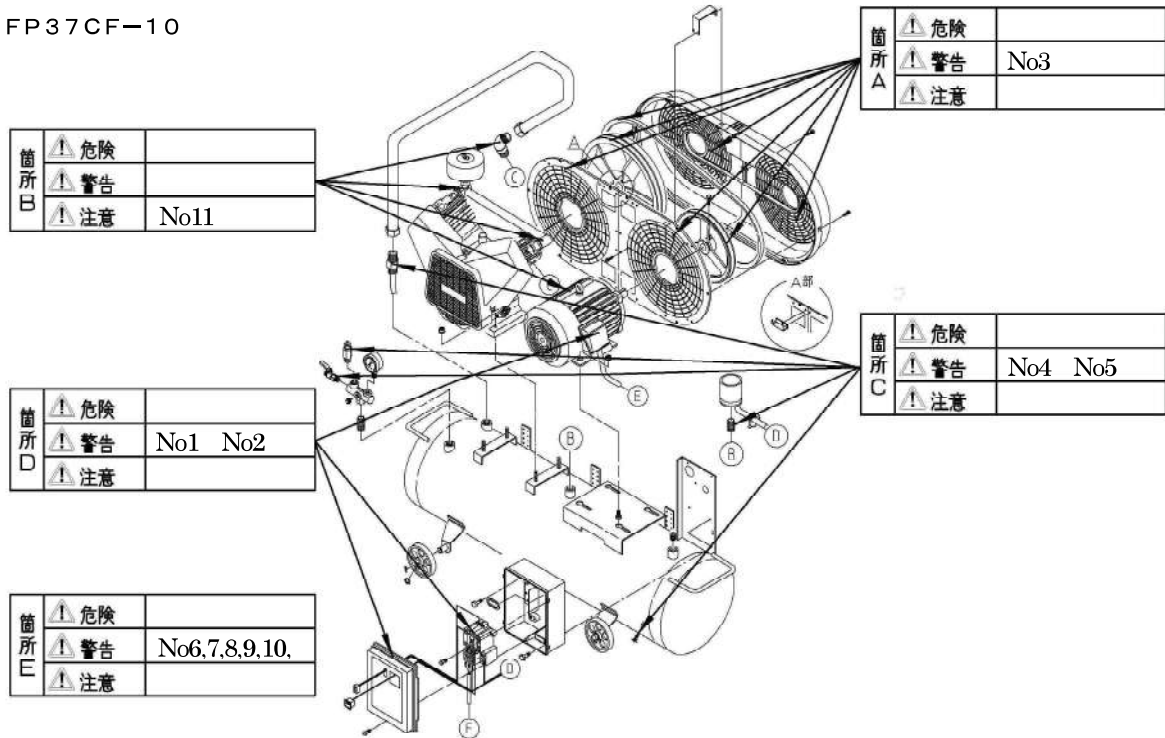
### TFP22CF-10



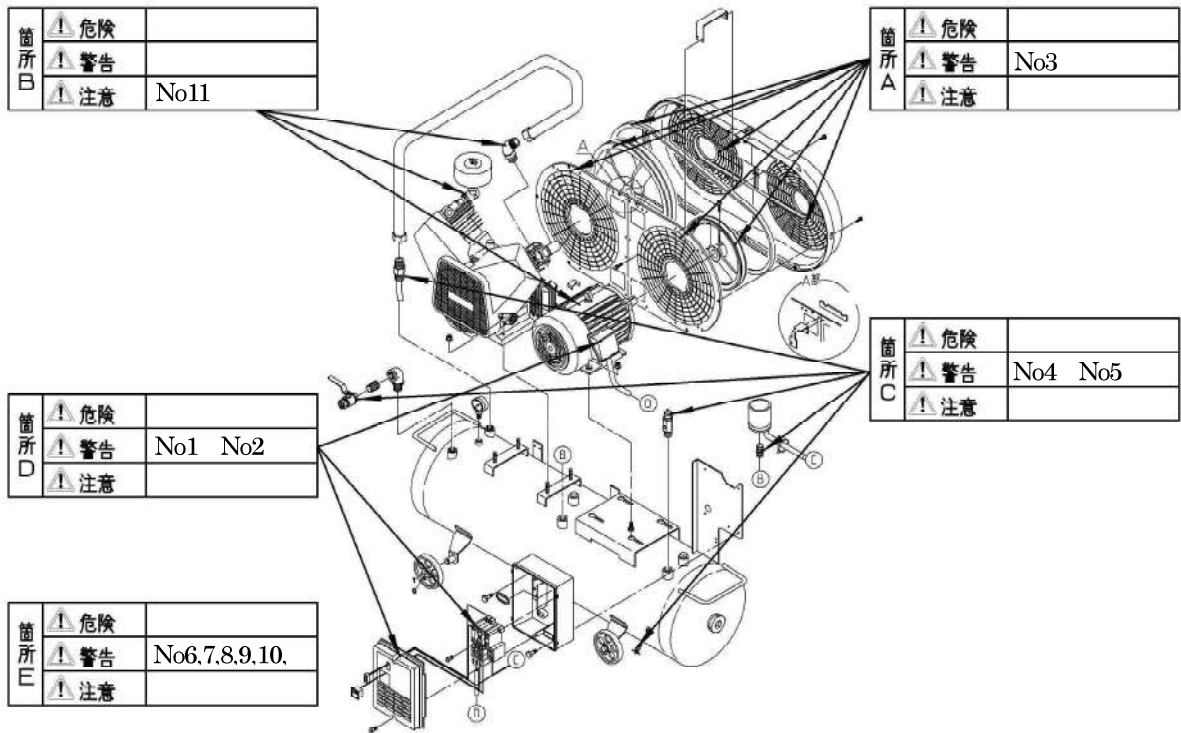
# 残留リスク

## ■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称：残留リスクマップ)

TFP37CF-10



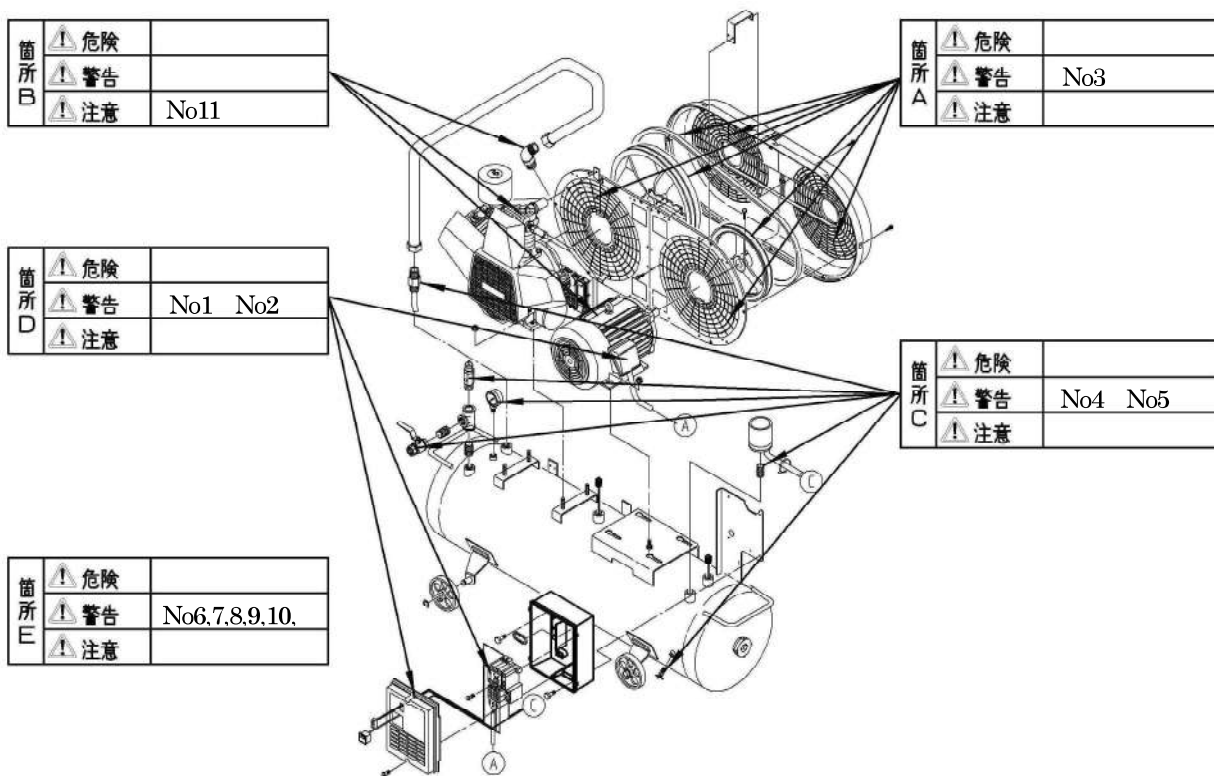
TFP55CF-10



# 残留リスク

## ■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称：残留リスクマップ)

TFP75CF-10 TFP110CF-10



# 残留リスク

## ■機械ユーザによる保護対策が必要な残留リスク一覧

(略称：残留リスク一覧)




製品形式：「TFP15CF-10 TFP22CF-10 TFP37CF-10 TFP55CF-10 TFP75CF-10 TFP110CF-10」

2015年05月25日

アネスト岩田株式会社

※必ず取扱説明書の内容をよく読み、理解してから本製品を使用すること。本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・  危険：保護対策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・  警告：保護対策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・  注意：保護対策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

※「機械上の箇所」として示されている記号は、本製品の「残留リスクマップ」に記載されている機械上箇所の記号である。

機械上の具体的な箇所については、「残留リスクマップ」を参照のこと。

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所※2	危害の程度※1	危害の内容	機械ユーザが実施する保護対策	取扱説明書のページ
1	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスを実施する時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	感電する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電磁開閉器のカバーをしないで運転しない。</li> <li>・ 電動機・圧力開閉器の保護カバーを外して運転しない。</li> <li>・ 電気配線工事は有資格者に依頼する。</li> <li>・ アースを必ずとる。</li> <li>・ 規定サイズの漏電遮断器を使用する。</li> <li>・ ナイフスイッチ等のヒューズ式保護スイッチは使用しない。</li> <li>・ 電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。</li> </ul>	P9, P10, P19
2	運転 保守	運転する時 メンテナンスを実施する時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	発火により火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規定以下の電源用ケーブルを使用しない。</li> <li>・ 電気配線工事は有資格者に依頼する。</li> <li>・ 電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。</li> </ul>	P9, P19

# 残留リスク

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所※2	危害の程度※1	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方策	取扱説明書のページ
3	運転 保守	運転する時 メンテナンス を実施する時	—	A	警告	ベルト、 プーリ、 ファンに 手や工具等を 近づけると 巻き込まれ ケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルトガードを取り外して運転しない。</li> <li>・ベルトガードの中に指や棒などを差し込まない。</li> <li>・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。</li> </ul>	P9, P10, P19, P24
4	運転 保守	運転する時 メンテナンス を実施する時	—	C	警告	圧縮空気が 噴出したり、 物が飛散する ことでケガを する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転中に付属の機器を取り外さない。</li> <li>・安全弁のチェック時に安全弁に顔を近づけない。</li> <li>・保安機器の設定を無断で変更しない。</li> <li>・作業前には必ず圧縮機の空気をすべて抜き、圧力がないことを確認する。</li> <li>・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。</li> </ul>	P9, P10, P21, P24, P25, P27
5	運転	運転する時	—	C	警告	圧縮空気を 吸引して ケガをする。 また、圧縮機 周辺の大気に 有毒ガス等が 含まれている と、同じものが 圧縮空気にも 含まれるため、 吸引すると 人体に重大な 影響を与える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しない。</li> <li>・周囲に有毒ガス等がない場所に設置する。</li> </ul>	P9, P10
6	運転	運転する時	—	E	警告	圧縮機が故障 すると人命に かかわる設備 が止まり人体 に重大な損傷 をあたえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧縮空気を人命にかかわる設備に使用しない。</li> </ul>	P10
7	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンス を実施する時	—	E	警告	爆発・発火し ケガ・火傷を する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・爆発性・引火性ガス、有機溶剤など、可燃物の付近に設置しない。</li> </ul>	P10, P16



# 残留リスク

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所※2	危害の程度※1	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方策	取扱説明書のページ
8	運転 保守	運転する時 メンテナンス を実施する時	—	E	警告	感電する。 発火により 火傷する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外に設置しない。</li> <li>・雨・蒸気が当たる場所、湿度が高い場所、結露しやすい場所に設置しない。</li> <li>・ごみやほこりが堆積する場所に設置しない。</li> </ul>	P9, P16
9	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンス を実施する時	—	E	警告	爆発・発火し ケガ・火傷をす る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気以外を圧縮しない。</li> <li>・圧力開閉器の設定を指定以外に調節しない。</li> </ul>	P10, P25
10	準備	設置する時	—	E	警告	コンプレッサ が落下して はさまれたり 下敷きになり ケガをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質量に十分耐えられる（余裕のある）吊り具を使用する。</li> <li>・重心位置を考慮しバランスよく吊り上げる。</li> </ul>	P16
11	運転	運転する時	—	D	注意	高温部に 触れて 火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護カバーを取り外して運転しない。</li> <li>・運転中や停止直後の電動機に手を触れない。</li> <li>・運転中や運転直後のコンプレッサ各部に手を触れない。</li> </ul>	P11, P21




# はじめに

## 重要なお知らせ


この取扱説明書には、製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

 <b>警告</b>	この指示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、又は物的損害の発生が想定される内容を示しています。

## ■絵表示例

	△記号は「注意すべきこと」を意味しています。 この記号の中や近くに具体的な内容を表示します。 (左の例は感電注意)
	⊙この記号は「してはいけないこと」を意味しています。 この記号の近くに、具体的な禁止内容を表示します。 (左の例は接触禁止)
	●この記号は「しなければならないこと」を意味しています。 この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。 (左の例は必ずアース線を接続せよ)

## ■補足表示

 <b>お願い</b>	この記号は、機械の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。
--	---

■警告、注意の表示を無視して使用した場合の損害および損傷については、当社は一切責任を負えませんのでご了承願います。

■法律による届出（騒音規制法および振動規制法）

7. 5kW以上の空気圧縮機を設置の場合は、届出の対象となります。運用は都道府県条例により規制内容が異なります。詳細は所轄の区・市・町・村役場の公害担当課へお問い合わせください。

届出場所	所轄の区・市・町・村役場の公害担当課
届出期日	設置工事開始または変更の30日前
届出内容	新設届 導入数の変更届

※設置の際、工場又は事業所の敷地境界線上で騒音振動が、地域で定められた規制値以下を守らなければなりません。

■この商品の保証について

巻末に保証と修理サービスについての説明があります。内容をよくお読みください。

■アネスト岩田は、ISO9001認証取得企業です。



# 目次

残留リスク	
■ 残留リスクマップ	.....01~03
■ 残留リスク一覧表	.....04~06
はじめに	.....07
目次	.....08
安全上のご注意	
■ 警告	.....09~10
■ 注意	.....11
■ 警告表示貼り付け位置	.....12
現品確認	
■ 形式の見方	.....13
■ 付属品一覧	.....13
■ 各部の名称	.....14~15
設置場所	
■ 警告	.....16
■ お願い	.....17
配管	.....18
配線	.....19
試運転	.....20
日常運転の管理	.....21
保守・点検	
■ 保守点検項目一覧表	.....22~23
■ 分解上の注意	.....24
■ 点検・清掃上の注意	.....24
■ 組立上の注意	.....24
■ 部品の購入について	.....24
■ 機能点検	.....25
故障かな？と思ったら	.....26~27
第二種圧力容器点検記録	.....28
法律による届出	
■ 労働安全衛生法に基づくもの	.....29
■ 騒音規制および振動規制法に基づくもの	.....29
立体分解図	
■ 圧縮機	
形式 TFP15CF-10	.....30
形式 TFP22CF-10, TFP37CF-10	.....31
形式 TFP55CF-10	.....32
形式 TFP75CF-10, TFP110CF-10	.....33
■ 圧縮機本体	
形式 F15P-10	.....34
形式 F22BP-10, F37BP-10	.....35
形式 F55P-10	.....36
形式 F75P-14, F110P-14	.....37
回路図	.....38
メモ	.....39
保証と修理サービス	.....40~41

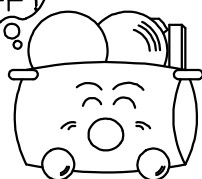
# 安全上のご注意

ここに示した内容は安全に関する重大な内容ですので、ご使用前によくお読みの上正しくお使いください。

## 警告

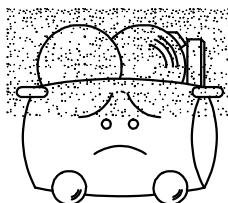
電装箱を開ける場合や配線作業・点検のときは、必ず元電源を切ること。  
(電装箱の先の電源を遮断する)  
※感電の危険があります。

電源  
OFF ↓



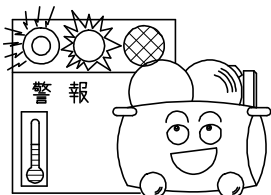
電源の遮断

塵埃(鉄粉、木屑、砂塵、粉塵など)の少ない  
場所で使用すること。  
※堆積したほこり等に発火する恐れがあります  
※部品の摩耗・寿命低下や故障の原因となり  
ます。



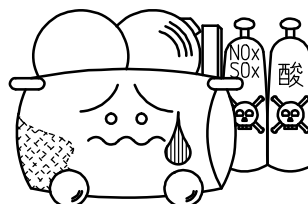
塵埃のない  
場所で使用

重要設備等に使用される場合は、圧縮機の  
予期せぬ停止に備え、必ず予備機やそれに  
替わる装置および安全装置を装備すること。  
※重大な損害を与える危険があります。



予備機  
の準備

腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・  
亜硫酸ガスなど)のない場所に設置すること。  
※圧縮機本体・セット部品・空気タンクの発錆・  
腐食・寿命低下・破損・破裂の原因となります。



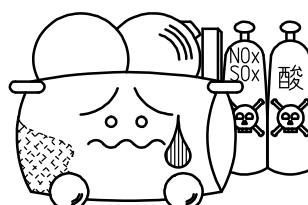
腐食ガスの  
ない場所

屋外には設置しないこと。  
※本製品は耐水構造になっていません。  
電気系統に雨水がかかると漏電や火災事故  
を起こすおそれがあります。



屋外設置禁止

人体に有害なガスがない場所に設置すること。  
※有害なガスがコンプレッサにより圧縮して  
吐出された場合、人体に重大な障害が  
おこる可能性があります。

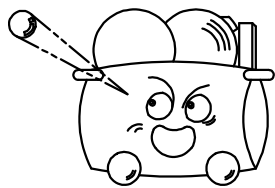


設置禁止

# 安全上のご注意

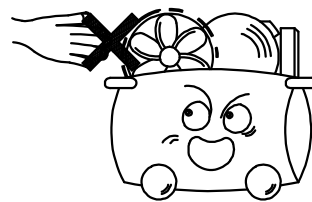
## 警告

点検・整備を行う場合には、空気タンクの圧力を必ず放出し、圧力がないことを確認してから実施すること。  
※部品が圧力で飛び、ケガをするおそれがあります。



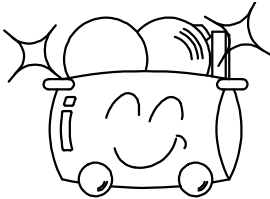
圧力確認実施

元電源が入った状態で、回転部(プーリー・ベルト)に手を触れないこと。  
※手が巻込まれて大ケガをするおそれがあります。



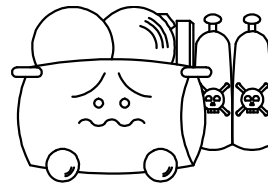
接触禁止

定期的に保守点検を行うこと。  
(22～25ページ参照)  
※火災や破損事故の原因となります。



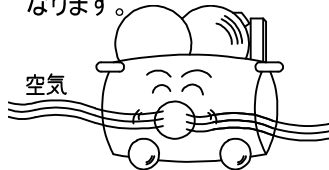
保守点検実施

爆発性ガス、引火性ガス(アセチレン・プロパンガスなど)可燃物のない場所に設置すること。  
※爆発・発火の原因となります。



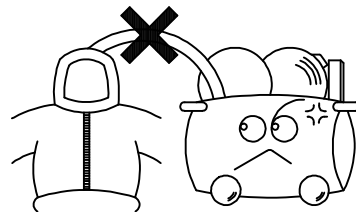
安全な場所に  
設置する

空気以外の気体の圧縮には絶対に使用しないこと。  
※爆発・火災・破損の原因となります。



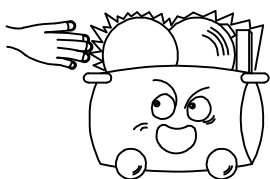
空気以外の  
ガスの  
圧縮禁止

圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器や人命に関わる機器には使用しないこと。  
※人体に重大な損害を与える危険があります。



使用禁止

アースの配線を必ず行うこと。  
※感電事故や火災の原因となります。



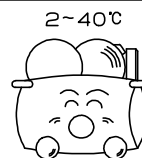
アース工事実施

# 安全上のご注意

## ⚠ 注意

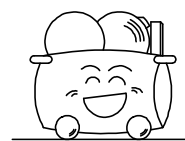
### ❗ 規定温度で使用する

周囲温度が2～40℃(運転中)の場所で使用すること。  
※2℃以下ではドレン凍結により故障の原因となります。  
40℃以上では、寿命低下や破損事故の原因となります。



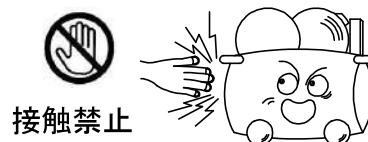
### ❗ 設置を安定化する

水平(傾斜3°以内)な場所に設置すること。  
※潤滑不良で焼き付きの原因となったり、不安定で車輪が浮いていると、異常振動や異音が発生する原因となります。



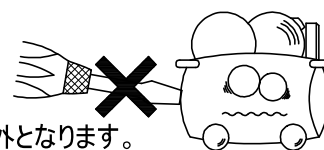
### ⊘ 高温部の接触を禁止する

運転中や停止直後は圧縮機各部に直接手を触れないこと。  
※火傷するおそれがあります。



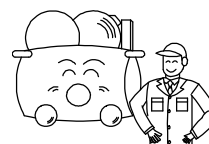
### ⊘ 改造を禁止する

製品の改造はしないこと。  
※故障事故や寿命低下の原因となります。改造製品は保証の対象外となります。



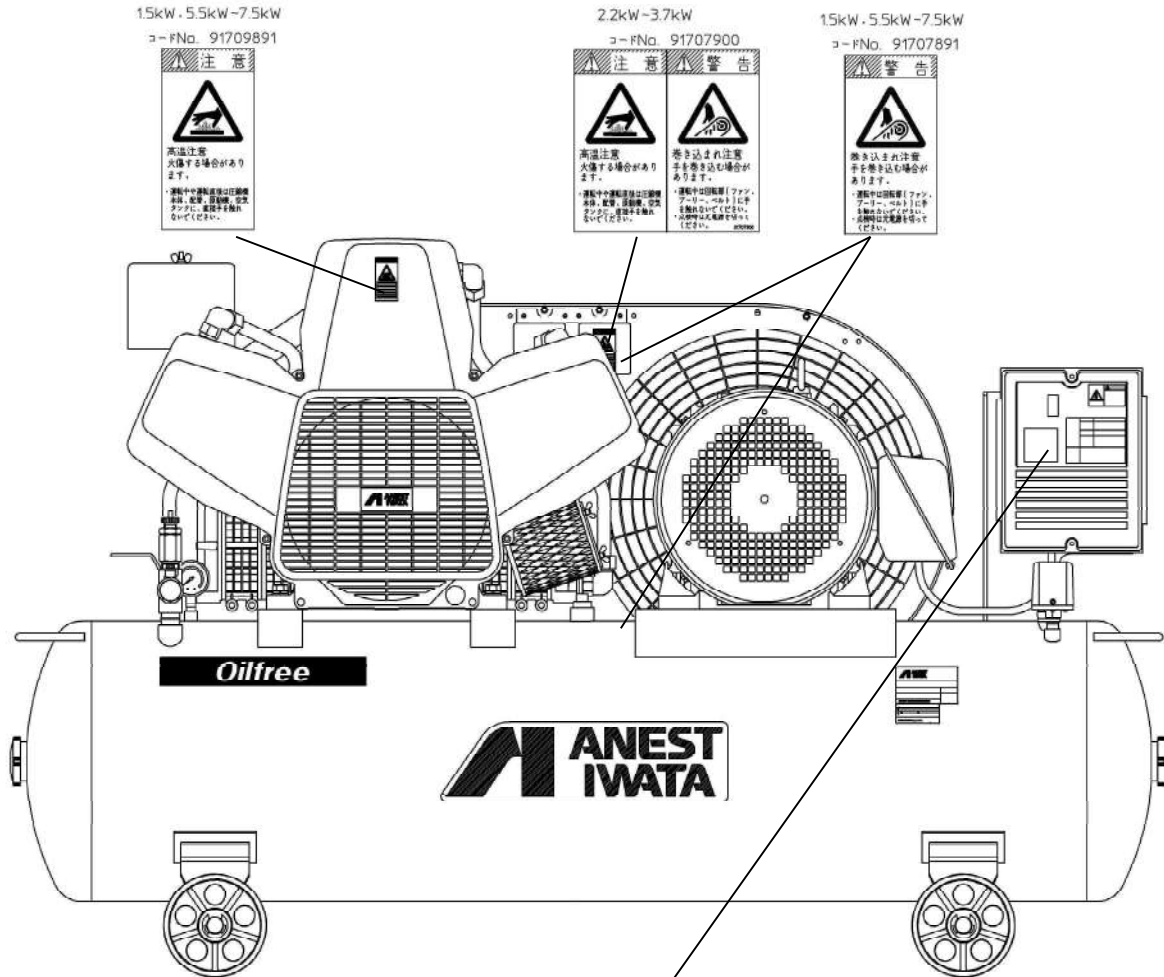
### ❗ 修理を依頼する

修理は専門の業者に依頼すること。  
※修理に不備があると破損事故や寿命低下の原因となります。



# 警告表示貼り付け位置

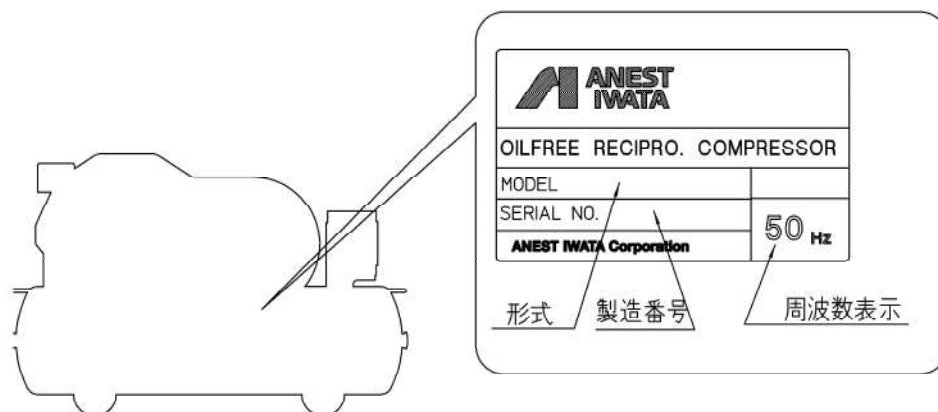
警告表示は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は新しい表示に貼りなおしてください。表示銘板はお買い求めの販売店または当社支店・営業所にお申し付けください。図は代表形式を図示しています。形式により形状と貼り付け位置が多少異なります。



<p>5.5-11kW コーFNo. 91700921</p> <p>運転スイッチ 運転 停止 運転再開</p> <p><b>警告</b> 感電注意 感電の危険があります。 電源プラグの抜き差しや ケーブルの破損・断線は 必ず行ってください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>点検期間</th> <th>点検内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎日</td> <td>圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認</td> </tr> <tr> <td>1週間</td> <td>圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認</td> </tr> <tr> <td>1ヶ月</td> <td>圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意事項 ・圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください。 ・運転中の異常音・異臭は必ず確認してください。 ・異常音・異臭は必ず確認してください。必ず電源を 切ってから行ってください。</p> <p>91700921</p>	点検期間	点検内容	毎日	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認	1週間	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認	1ヶ月	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認	<p>3.7kW コーFNo. 91709711</p> <p>運転スイッチ 運転 停止</p> <p><b>警告</b> 感電注意 感電の危険があります。 電源プラグの抜き差しや ケーブルの破損・断線は 必ず行ってください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>点検期間</th> <th>点検内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎日</td> <td>圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認</td> </tr> <tr> <td>1週間</td> <td>圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認</td> </tr> <tr> <td>1ヶ月</td> <td>圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意事項 ・圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください。 ・運転中の異常音・異臭は必ず確認してください。 ・異常音・異臭は必ず確認してください。必ず電源を 切ってから行ってください。</p> <p>91709711</p>	点検期間	点検内容	毎日	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認	1週間	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認	1ヶ月	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認	<p>15-2.2kW 圧力タンクに貼り付け コーFNo. 91709670</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>点検項目</th> <th>点検内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運転前</td> <td>圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認</td> </tr> <tr> <td>1ヶ月</td> <td>圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意事項 ・圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください。 ・運転中の異常音・異臭は必ず確認してください。 ・異常音・異臭は必ず確認してください。必ず電源を 切ってから行ってください。</p> <p>91709670</p> <p>1.5-2.2kW 電圧開閉用のボックスに貼り付け コーFNo. 92664010</p> <p><b>警告</b> 感電注意 感電の危険があります。 電源プラグの抜き差しや ケーブルの破損・断線は 必ず行ってください。</p> <p>92664010</p>	点検項目	点検内容	運転前	圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認	1ヶ月	圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認	1年	圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認
点検期間	点検内容																									
毎日	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認																									
1週間	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認																									
1ヶ月	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認																									
点検期間	点検内容																									
毎日	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認																									
1週間	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認																									
1ヶ月	圧力スイッチの動作確認 （圧力スイッチの動作確認は 必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認																									
点検項目	点検内容																									
運転前	圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） 異常音、異常臭の確認																									
1ヶ月	圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認																									
1年	圧力スイッチの動作確認（圧力スイッチの動作確認は必ず行ってください） ケーブルの破損・断線 ケーブルの抜き差し確認																									

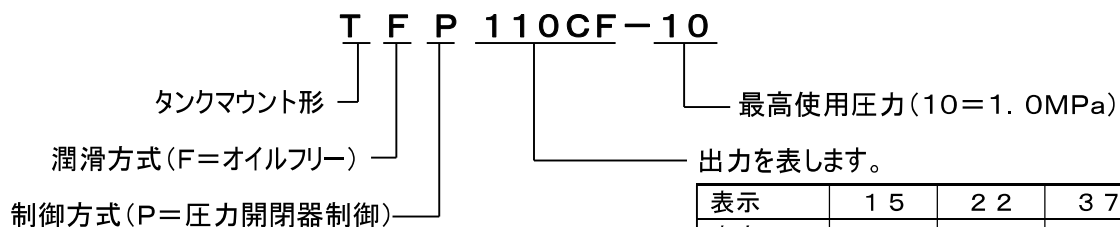
# 現品確認

形式・周波数がご注文どおりか、現品を確認してください。



輸送中に変形や破損した箇所がないか確認してください。

## ■形式の見方



表示	1.5	2.2	3.7
出力 kW	1.5	2.2	3.7
表示	5.5	7.5	11.0
出力 kW	5.5	7.5	11

数値の後のCFは、シリーズ記号です

## ■付属品一覧

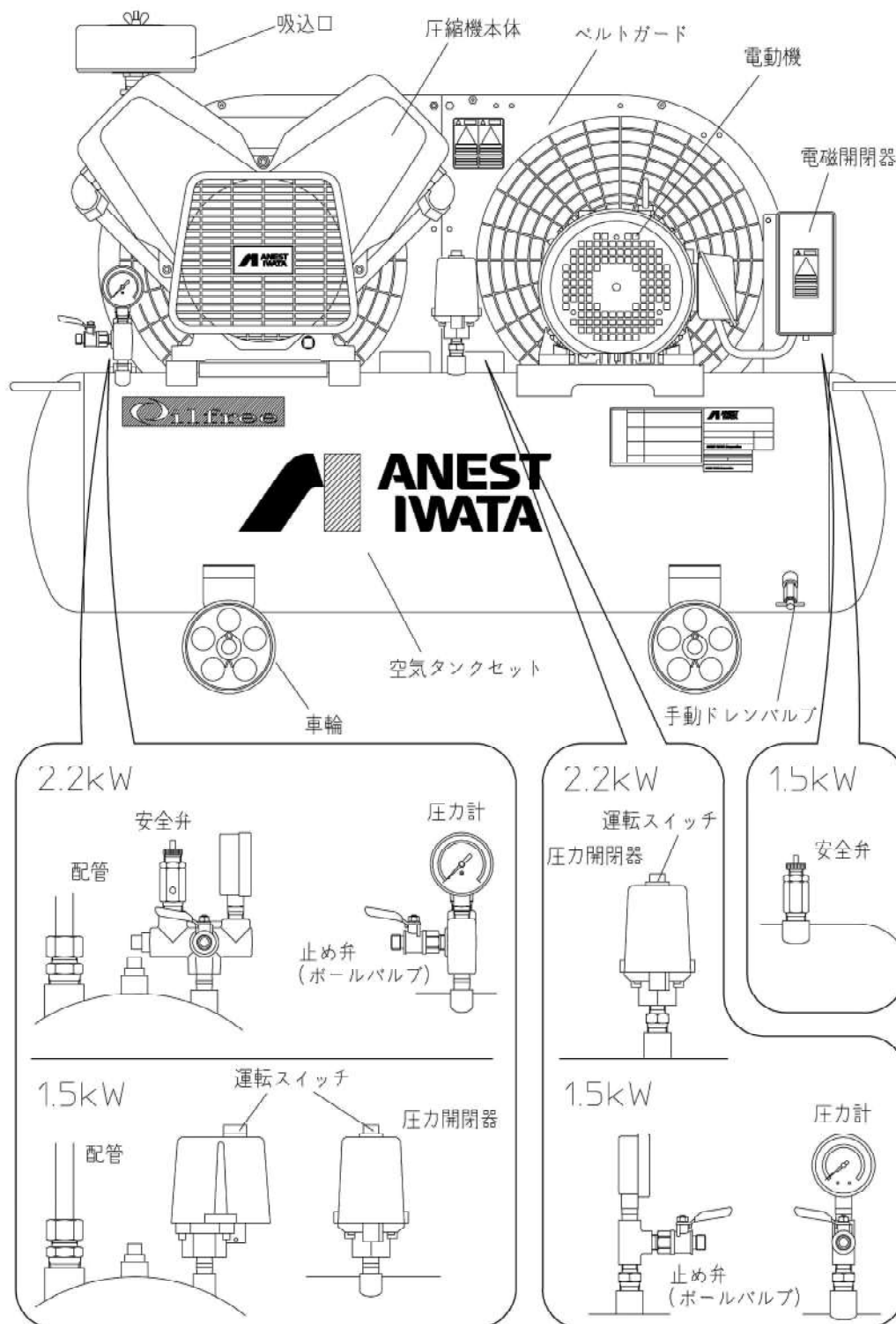
付属品がすべてあるか、確認してください。

- |            |    |              |    |
|------------|----|--------------|----|
| ◎ 取扱説明書    | 1部 | ◎ 第二種圧力容器明細書 | 1部 |
| ◎ 電動機取扱説明書 | 1部 | ◎ タンク寸法表     | 1部 |

# 各部の名称

下図は代表形式（※）を示しておりますので、形式により構成部品や外観形状が異なります。

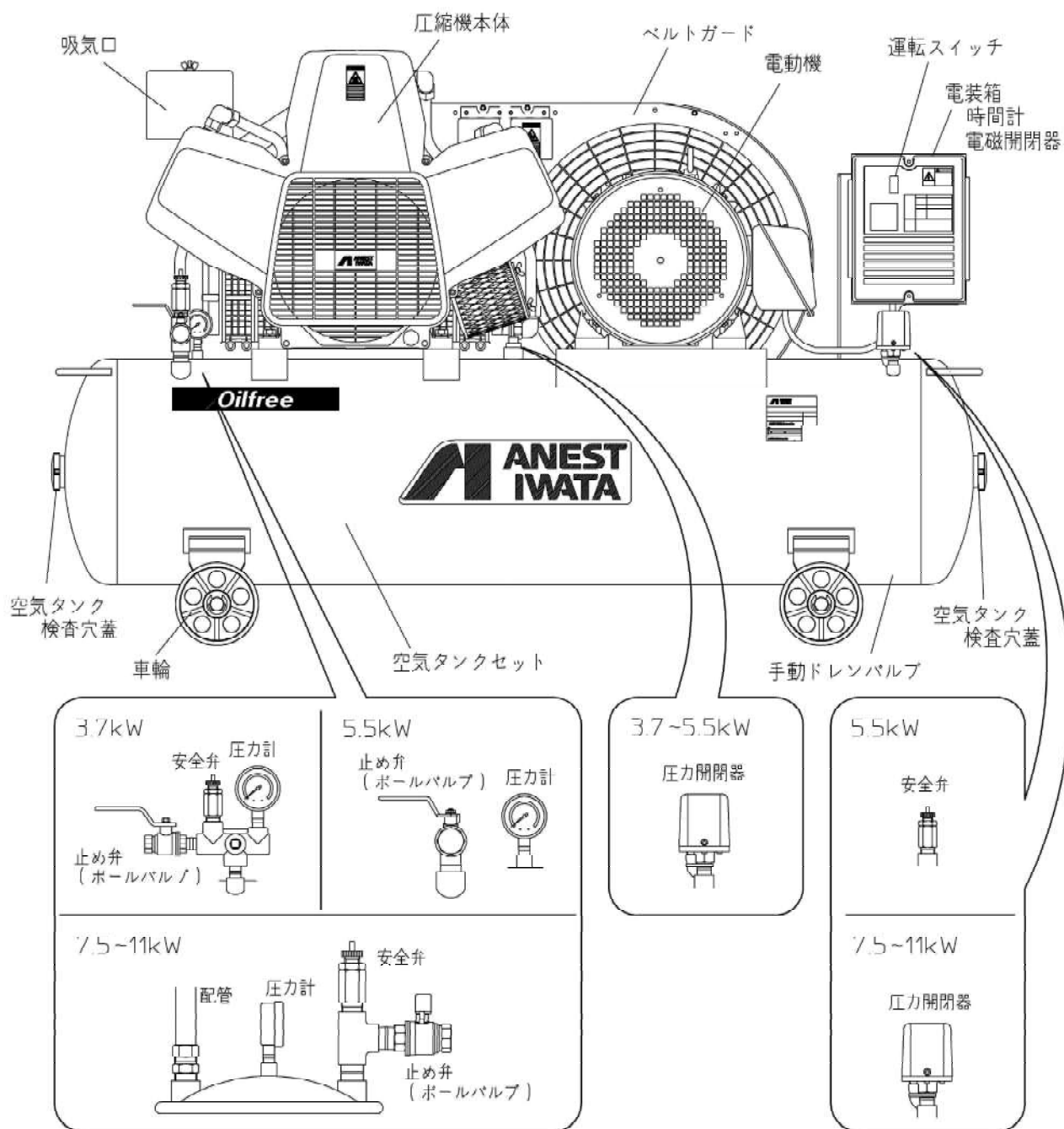
形式 TFP15CF-10  
TFP22CF-10(※)



# 各部の名称

下図は代表形式(※)を示しておりますので、形式により構成部品や外観形状が異なります。

形式 TFP37CF-10  
 TFP55CF-10  
 TFP75CF-10  
 TFP110CF-10(※)





# 設置場所

設置には下記の事項を必ずお守りください。

## 警告

室内で湿気のない場所に設置してください。

※雨水がかかったり、湿気の多い場所では、漏電や火災事故を起こす危険があります。



水気禁止

## 警告

近くに発火性ガス、引火性ガス（アセチレン・プロパンなど）可燃物のない場所に設置してください。

※不適当な場所では、爆発・発火事故の原因となります。



安全な場所に設置する

## 警告

周囲温度が2℃から40℃で腐食ガス・直射日光のあたらない場所でご使用ください。

※2℃以下の使用は、ドレンの凍結により圧縮機各部に作動不良が発生する原因となります。

2℃以下で使用される時は、当社支店・営業所にお問い合わせください。

※40℃以上の使用は、ベアリンググリスの劣化やピストンリング磨耗の原因となり、寿命低下や破損事故の原因となります。

※腐食性ガスの雰囲気での使用は、圧縮機本体・セット部品・空気タンクの発錆・腐食・寿命低下・破損・破裂の原因となります。換気に十分ご注意ください。



規定の場所で使用する

## 警告

ごみやほこりの少ない場所を選んでください。

※鉄粉・石粉・研磨粉・木屑などを吸い込むと、吸込みフィルタの目詰まりによる性能低下や圧縮機内部の異常摩耗による破損事故の原因となります。

※堆積した可燃物の発火のおそれがあります。



粉塵のない場所に設置する

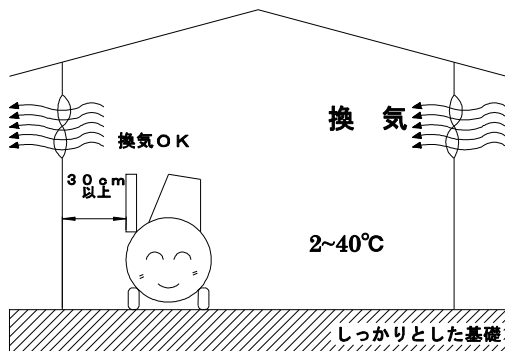
## 警告

設置の際に吊り上げる場合は十分に考慮ください。

※質量に耐えられない吊り具を使用したり、バランスを考慮せずに作業すると落下事故の原因となり、重大なケガをする恐れがあります。



安全な作業をする



### 換気量について

コンプレッサ出力 [kW]	全体換気量 [m <sup>3</sup> /min]
0.75	10
1.5	15
2.2	25
3.7	40
5.5	60
7.5	80
11	120

※室内温度上昇を5℃に抑えた場合です。

※この換気量は静圧が0のときの値です。

実際の選定にあたっては、この数値以上のものを選定してください。

# 設置場所

## お願い

ベルトガード側は壁と30cm以上離して設置してください。  
 ※壁面に近い設置は、圧縮機の冷却能力を低下させ寿命低下の原因となります。



## お願い

水平(3°以内)で基礎がしっかりしている場所を選び、車輪は4個とも床面に付くように設置してください。また、車輪止めなどによる固定はしないでください。

※設置が不安定で車輪が浮いていると、異常振動・異音や圧縮機の破損が発生する原因となります。車輪の下にゴムや緩衝布を敷くと安定し、防振効果にもなります。  
 ※車輪が固定されると、運転中の振動が逃げないため、圧縮機が破損する原因になります。



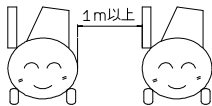
## お願い

保守・点検が容易にできる場所に設置してください。  
 ※圧縮機の周囲に作業員が入って、十分に点検できるスペースを確保してください。



## お願い

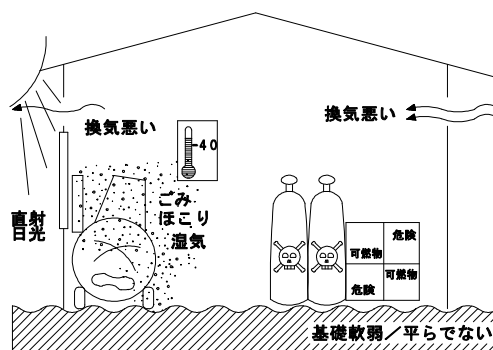
2~3台を並列に並べて運転する場合は、間隔を1m以上あけて設置してください。  
 ※圧縮機同士が温度影響を受け、圧縮機の寿命低下の原因となります。



※次の場合は、必ず当社支店・営業所にご相談ください。

## お願い

- ・屋外で使用したい場合。
- ・圧力等を変更したい場合。
- ・密閉された部屋で使用する場合。
- ・箱に入れて使用したい場合。
- ・その他、特殊な用途・場所で使用する場合。



# 配管

鋼管で配管する場合は、圧縮機の止め弁（ボールバルブ）と鋼管の間をゴムホースやフレキシブルチューブで中継してください。

- 鋼管に直接接続すると、振動により配管に亀裂を生じたり、圧縮機の振動に悪影響を与えることがあります。

ゴムホースは、指定のゴムホース（JIS K6379 または JIS K6349 相当品）をご使用ください。

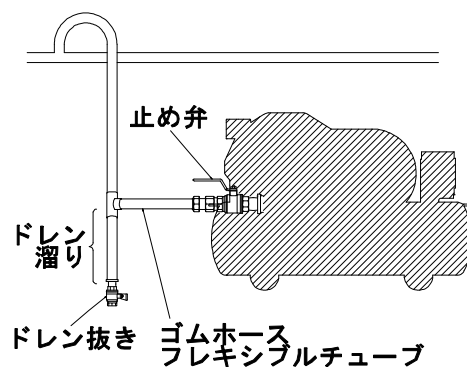
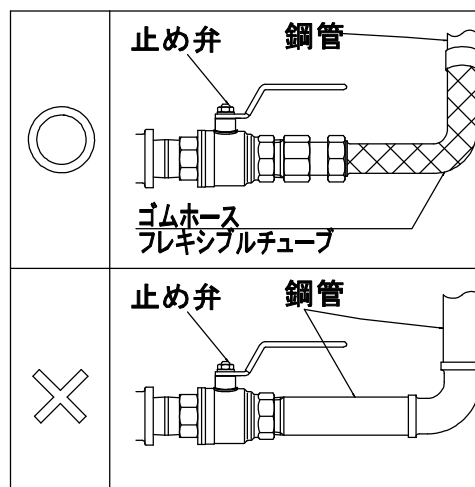
- ホースの両端に使うネジ継手はホースメーカー指定のものをご使用ください。

立ち上がり配管がある場合は、必ず下部にドレン溜りとドレン抜きを設けてください。

## ■2台以上の並列設置

圧縮機を2台以上同一配管上で運転する場合は、以下のような運転方法に変えることができます。

- 全ての圧縮機を均等に運転する。
- 主運転と予備運転に分けて運転する。  
※上記の運転方法につきましては、改造を伴います。  
詳しくは、当社支店・営業所までお問い合わせください。
- ※特別の配慮をせずに2台以上を同一配管上で運転すると、圧縮機制御装置の微妙な圧力差により1台が常に運転し、運転負荷が集中してしまう場合があります。



# 配線

## 警告

配線作業は、必ず元電源を切ってください。

※感電の危険があります。

電気配線工事は、電気工事士又は、電気工事店に依頼してください。

電源は必ず下表の漏電遮断器を通して、1台ごとに単独で接続してください。  
※感電や火災の原因となります。



電源の遮断 有資格者に  
依頼する

配線容量は右表の通りです。

- 配線が長すぎたり、規定より細い場合には、電圧が低下し電動機が起動しなかったり、加熱して焼損の原因となります。
- 右表の線の太さは、キャブタイヤケーブルで長さが20m以下を基準としたものです。
- 元電源と圧縮機の間には電源保護用の漏電遮断器を通して配線してください。

出力 (kW)	電源	配線容量			接続端子 ねじ 呼称
		配線の 最小太さ	アース線の 最小太さ	漏電 遮断器 定格電流	
1.5	3相 200V	1.25mm <sup>2</sup>	2.0mm <sup>2</sup>	30A	M3.5
2.2	3相 200V	2.0mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup>	40A	M3.5
3.7	3相 200V	5.5mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup>	60A	M4
5.5	3相 200V	5.5mm <sup>2</sup>	5.5mm <sup>2</sup>	75A	M4
7.5	3相 200V	14mm <sup>2</sup>	8.0mm <sup>2</sup>	125A	M5
11	3相 200V	14mm <sup>2</sup>	8.0mm <sup>2</sup>	125A	M5

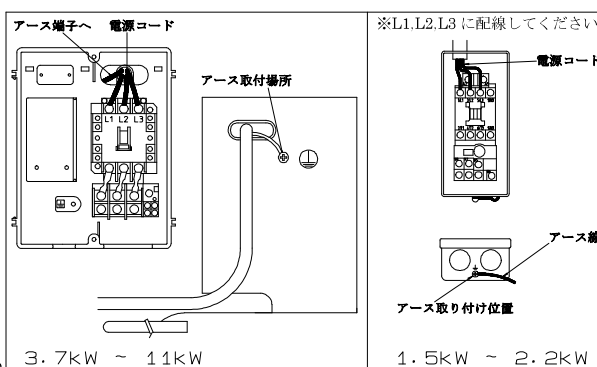
注. 漏電遮断器定格は、内線規定 3705 節による

電源コードは、電磁開閉器の端子(L1・L2・L3)の端子にゆるみや外れがないようにしっかりと接続してください。

アース線の接続もしっかりしてください。

電磁開閉器の端子カバーは下図のように  
取外し、配線後に再度取付けてください。

- 接続が不十分ですと接続部が加熱したり、電動機の焼損事故の原因となります。
- アース(M5)の接続位置は、図を参照ください。
- 配線時に、L1・L2に接続されているコード(細いコード)を外さないよう注意してください。外れたままにすると始動しません。



## 警告

漏電防止のため、アースは必ず  
取りつけてください。アース取付け  
ネジは、上記の位置に用意して  
あります。



アースの接続

※感電や火災の原因となります。

進相コンデンサを使用する場合は、電磁  
開閉器の二次側(電動機側)図のように  
接続してください。また電磁開閉器は  
1ランク大きいものに変更してください。

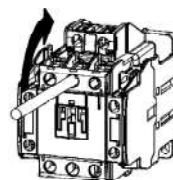
- 電磁開閉器の電源側には接続しないでください。電源側に接続すると電磁開閉器の接点やコイルの焼損の原因となります。

## 警告

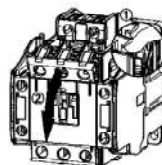
配線作業で外した電装箱及び  
電磁開閉器の蓋は、配線後に必ず  
元に戻してから運転してください。  
蓋無しで運転しないでください。  
※感電や火災の原因となります。



運転禁止

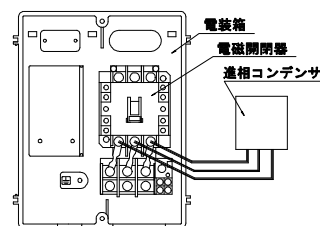


ドライバーの場合



ネジの場合

※端子カバーの取外し方



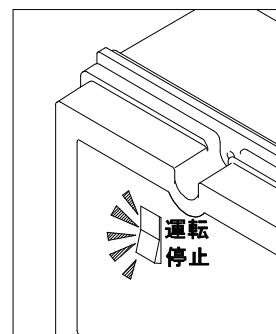
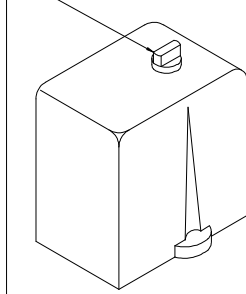
# 試運転

## ■試運転

数秒間運転させて回転方向を確認してください。

- 手元運転スイッチは、電装箱にある形式と、圧力開閉器に一体で付いている形式があります。  
電装箱にある形式では、元電源が入っている時は運転スイッチ(ランプ内蔵)が点灯します。  
圧力開閉器に一体で付いている運転スイッチの操作は、ON OFFの位置一杯までひねってください。
- 回転方向は下図のとおりです。形式により回転方向銘板の貼り付け位置は異なります。

運転スイッチ



## 警告

正しい回転方向で運転してください。  
※回転方向が逆ですと圧縮機の冷却が損なわれ加熱により圧縮機の寿命低下の原因となります。



回転方向確認



## お願い

一体型の運転スイッチは、ON OFF共に左右一杯まで回し中間位置で止めないでください。  
※途中で止めているとスイッチのチャタリングが発生し、電磁開閉器の故障の原因となります。



位置確認

- 回転方向が反対の時は、電磁開閉器に接続した電源コード3本のうち両端の2本を入れ替えてください。

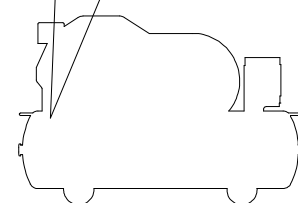
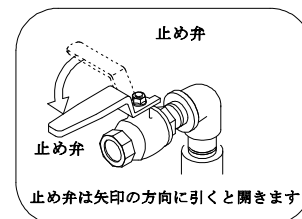
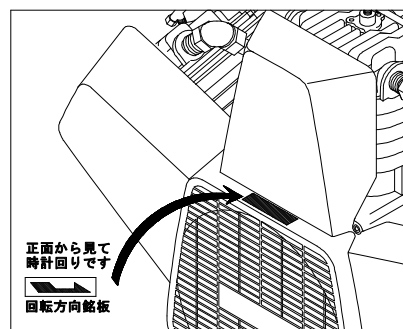
## ■運転制御確認

止め弁を全開にし、運転スイッチを投入して運転をします。10分程度負荷をかけずにならし運転をして異常がなければ、止め弁を閉じて空気タンクの圧力が上昇することを確認してください。

- 圧力計の針が作動圧力(25ページ参照)まで達した時、制御部品の圧力開閉器が作動して運転を停止します。

止め弁を開いて、空気タンクの圧力を徐々に下げてください。

- 圧力計の針が復帰圧力まで降下した時、制御部品の圧力開閉器が作動し、運転が再開されます。
- 作動圧力が25ページの『機能点検』の設定圧力より外れている場合は、圧力開閉器に狂いが出てきています。お買い求めの販売店または当社支店・営業所までご連絡ください。



## 運転中

運転中に異常音(カンカン音や通常と異なる音)や異常振動(目で見て明らかに多い、グラグラする揺れ)が発生した時は、直ちに本機の運転を中止し、原因を取り除いてから、運転を再開してください。



# 日常運転の管理

## ⚠ 注意

運転状態の時は、操作部(運転スイッチ、空気止め弁、ドレン抜き、圧力開閉器)以外の部分に手を振れないでください。  
※自動発停している場合、圧力降下により急に運転を開始することがあり、回転体で怪我や高温部で火傷の危険があります。



接触禁止

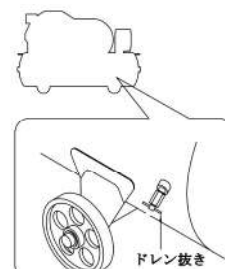
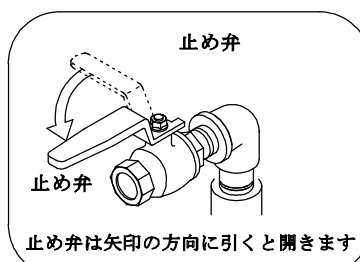
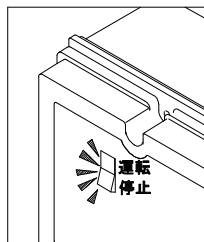
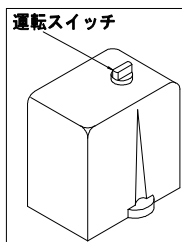
## 運転終了

作業終了後、運転スイッチを切り、空気タンク内の圧縮空気を完全に放出してください。

- タンクに圧力があることを知らずに止め弁を不用意に開放した際に発生する事故を防止できます。
- 圧力計の針上がりを防止出来ます。

1週間に1度は、必ず圧縮空気を抜く前に手動ドレンバルブを操作し、空気タンクのドレンを排出してください。

- タンク内部の錆発生を減少させることができます。毎日実施することでより効果が上がります。
- 冬季にドレンが凍結してドレンバルブ等を破損することを防止できます。
- ドレン水の出が悪い場合には、ドレンパイプの詰まりを点検・清掃除去してください。
- ドレン排出時にドレン水に錆が混入する場合がありますが、タンク材質の特性によるもので特に異常ではありません。



長期間(1週間以上)運転しない場合には、下記内容にて処置ください。

コンプレッサを正常にお使いいただく為に必ずお守りください。

【保管場所】…下記のような場所に保管してください。

- 湿気や塵埃(鉄粉・木屑・砂塵・粉塵)の少ない場所。
- 腐食性ガス(アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・亜硫酸ガスなど)が発生しない場所。

【ドレン処理】…下記処置を行ってください。

- 空気タンク内の圧縮空気が残っている間にドレンバルブを開けてドレンを完全に放出してください。最後に止め弁も全開にして圧縮空気も完全に抜いてください。

※錆の発生・圧力によるシート部変形・摺動部の不具合発生を防ぐことができます。

【元電源】必ず切ってください。

【定期運転】…1ヶ月ごとに下記要領にて運転してください。

- (1) 無負荷にて30分運転する。
- (2) 昇圧し制御圧力が正常に作動するか確認する。
- (3) 空気タンク内のドレンを完全に排出し、圧縮空気も完全に放出する。

【お願い】

6カ月以上運転を停止する場合、定期運転処理を行っても異常が発生する場合があります。安全にお使いいただくために、6カ月以上運転を停止させた後に運転を再開する場合はメンテナンスが必要になりますので、当社支店・営業所にお問い合わせください。

# 保守・点検

次の点検項目を定期的を実施してください。

点検は、下記期間を基準に実施してください。表に掲げた点検期間は、標準的な使用の場合を想定していますので、使用条件が過酷な場合は、点検期間を早めてください。標準的な使用状況とは、周囲温度は、40℃以下でかつ年間平均温度30℃、運転時間は、年間2500時間です。その他は、設置注意事項によります。

◆例えば、24時間連続運転で年間200日稼働する場合の点検期間は、表の半分の期間になります。

◆点検・整備は、運転時間または期間のいずれか早い方を基準に実施してください。

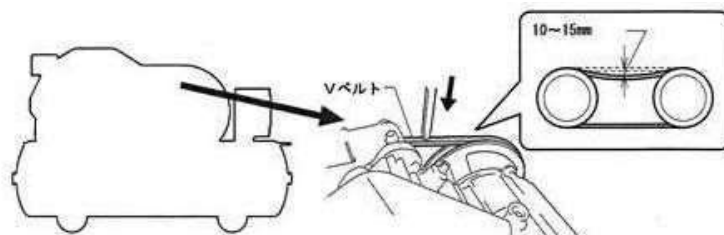
◆点検基準期間は、保証期間とは異なります。

◆点検要領欄の※マーク付は、お客様にて処理することが難しい内容です。

お買い求めの販売店または当社支店・営業所に連絡してください。

## ■保守・点検項目一覧表

点検項目	点 検 整 備 時 間				点検要領  (期間または時間の早く到達した方で実施)
	毎日	1ヶ月毎 200hr 毎	6ヶ月毎 1250hr 毎	1年毎 2500hr 毎	
空気タンクの ドレン抜き	○				点検は21 ページを参照。
異常振動・異常音	○				異常のある場合は17、20、27 ページを参照
ボルト・ナット・ ネジ類の緩み		○			緩みのある場合は、適正な工具にて増し締めをする。
制御機器の作動 (圧力計・圧力開閉器)		○			異常のある場合は、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。
ベルトの 張り具合と痛み		○		○ ※	電源を切った停止中にベルトガードの隙間からベルトの傷やクラックを確認する。運転開始直後に極端なスリップ音が出ていないか確認する。運転中にバタツキやベルトガードとの接触がないか確認する。 ※ベルトの張り加減を確認。スパン中央部分を軽く押さえ、10～15mm程へこむ位にしてください。(下図参照) 緩みのある場合は、電動機をスライドさせて調整する。 ベルトに摩耗・傷みのある場合は交換する。
フィルタ (吸込口・ クランク室)		○		■	エアブローにより粉塵を除去(内側から外側に向かい)する。汚れがひどい場合は交換する。
圧縮空気の漏れ				○	最高圧力で30分間放置し圧力降下が最高圧力の10%以内であることを確認する。 ※圧力降下が多い場合は、点検・整備する。
車輪への注油				○	車輪の注油穴に潤滑材を注入する。 ※車輪の固着が確認された場合は、修理を依頼する。



# 保守・点検

	点検項目	点検整備時間						点検要領 (期間または時間の 早く到達した方で実施)	
		一週間	1ヶ月毎	1年毎 2500hr	2年毎 5000hr	3年毎 7500hr	4年毎 10000hr		6年毎 15000hr
総合点検	電装品 (電磁開閉器・ 圧力開閉器・ 電動機・時計)			○			■	接点の荒れ、電動機の絶縁抵抗 (リード線とアース間の抵抗1MΩ 以上)を点検する。 堆積した塵埃を清掃する。 ※不具合があれば交換する。 電磁開閉器は4年毎に交換する。	
	配管部品 接続管、樹脂チューブ 防振ゴム			○			■	硬化、ひび割れなどを点検。 異常があれば交換する。 ※ゴム・樹脂チューブは4年毎に 交換する。	
圧縮機 本体周りの点検	弁セット シリンダヘッド				○		■ 弁セット	※弁セットに付着した摩耗粉を除去、 清掃できなければ交換する。	
	リング・シート・ ゴムパッキン				○		■	※劣化(弾力なし)や変形あれば 交換する。4年毎には交換する。	
	ピストンリング	A				○		■	※磨耗の確認。 一部の幅が2.5mm 以下の場合 は交換する。1mm で限界。
		B				○		■	
	ピストン	A				○		■	※ピストン、シリンダの傷、 シリンダ段付摩耗等多い場合は 交換する。 ピストンリング溝下面の付着物 は除去する。
		B				○		■	
	シリンダ	A				○			
		B				○			
連接棒セット	A				○		■	※○小端部グリスを補給する。 ベアリング回転状況を確認する。 異常があれば交換する。	
	B				○		■		
ベアリング	A				○		■	※■交換する。クランク軸セットでの 交換となります。	
	B				○		■		
空気タンク 点検	空気タンク			○				胴・鏡板などの腐れ、漏れ、ふくれ、 クラックの有無を点検する。 ※不具合がある場合は交換する。	
	安全弁			○				漏れがないことを確認する。 ※漏れがある場合は交換する。	
	圧力計			○				圧力計の指針が圧力0の時、0を 指しているか確認する。	

注1. 表中の記号は○点検 ■は交換を示します。

注2. 法令により事業者は、使用開始後1年以内毎に1回、空気タンクの点検事項を自主点検し、その結果を最低3年間は記録保存しなければなりません。(記録用紙は本取扱説明書の28ページに添付してあります。)

空気タンクの容量が40L未満の場合、法的義務はありませんが、安全上から実施してください。

注3. 点検項目の記号は A: 5.5~11kW 0.85MPa

B: A以外の形式を示す。

注4. その他消耗部品についても、点検整備時に異常があれば新品と交換してください。

基本的には、4年毎に無条件に交換の実施をお願いします。

注5. 保守点検の一覧表で※印のついた項目は、お客様において処置するのが困難な項目です。

お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。



# 保守・点検

## ■分解上の注意

### 警告

元電源を必ず切って作業してください。

※急に運転状態となり、怪我をすることがあります。

空気タンクの圧力を完全に抜いてから作業をしてください。

※分解時、部品が飛んで怪我をすることがあります。

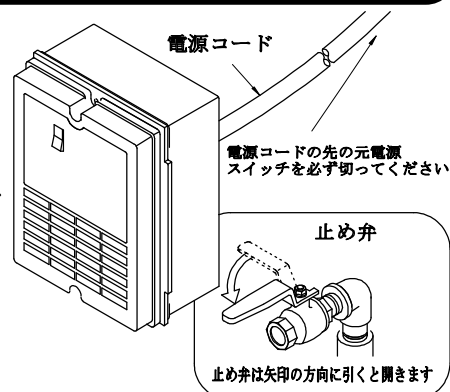


電源の遮断



圧縮空気を  
放出する

- 元電源を切ってください。
- 空気タンクの圧縮空気を完全に抜いてください。
- 分解した部品は、分解順序に従って並べて置きます。  
組立完了後、部品が残らないようにしてください。
- 各部品の摺動面・パッキン面・はめあい部分を傷つけたり、  
変形させないように取り扱いには十分気をつけてください。
- 樹脂ファンの羽根を掴んでボルトを緩めたり、締めたり、  
またファンを回転させたりしないでください。  
※ファン破損の原因になります。



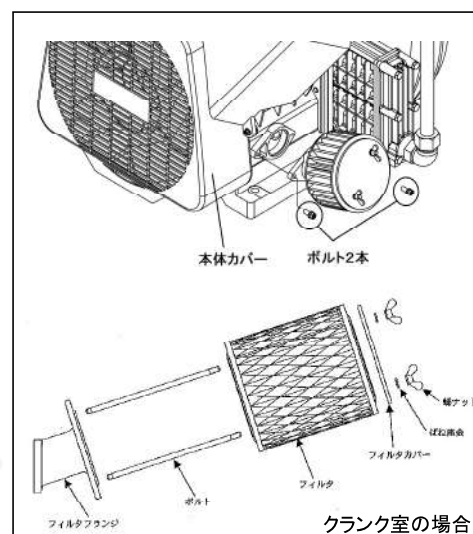
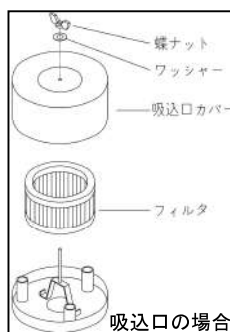
## ■点検・清掃上の注意

### ●フィルタの交換

汚れがひどい場合には交換します。

蝶ナットまたは金具を外し、カバーを開けて中のフィルタを交換します。

クランク室に取り付けられたフィルタは、作業が困難な場合は右図のボルト2本を外しフィルタフランジごと外した後、フィルタを交換し再度組み付けます。  
※スパナやレンチ工具を使用してください。



## ■組立上の注意

- 各部品は軟らかい布などで清掃してから組み付けてください。  
ピストンは落とさないようにご注意ください。落下の衝撃で破損または破損の原因を発生させます。
- ゴム状のパッキンに硬くなっている箇所や傷がないか確認してください。ある場合は交換ください。
- 組み付け完了後、手でプーリーを回し軽く回すことを確認してから、運転を開始してください。

### お願い

保守点検一覧表で※印のついた項目は、お客様において処置するのが困難な内容です。  
お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。

## ■部品の購入について

- 部品をご購入の際には、巻末の立体分解図の部品表を参考にして、必要な部品名を部品番号および、本機の形式をご指定の上、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。 ※形式は、13ページに示した銘板により正確な形式を連絡ください。

# 保守・点検

## ■機能点検

### ●圧力制御機器の設定圧力

下表の圧力で作動・復帰するか、漏れなどがないかどうかを確認します。

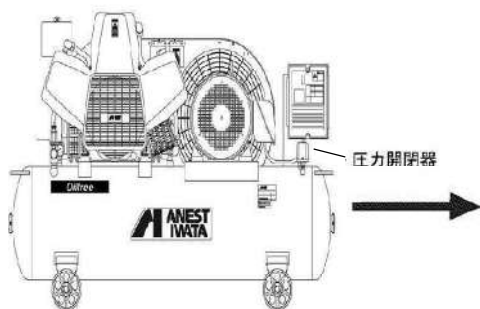
単位 MPa

形式	最高圧力	圧力開閉器			安全弁 吹出し圧力
		作動(止まる) 圧力	復帰(動く) 圧力	差圧 (作動-復帰)	
TFP15CF-10	1.0	1.0 調整範囲 0.8~1.0	0.8 調整範囲 作動圧と差圧 による	0.2 調整範囲 0.15~0.25	1.08
TFP22CF-10					
TFP37CF-10					
TFP55CF-10					
TFP75CF-10					
TFP110CF-10					

圧力開閉器の作動・復帰圧力、安全弁の吹き出し圧力が上記よりずれている、あるいは漏れなどの異常がある場合は、ただちにご使用を止め、元電源を切り、圧縮空気を抜いてから、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。

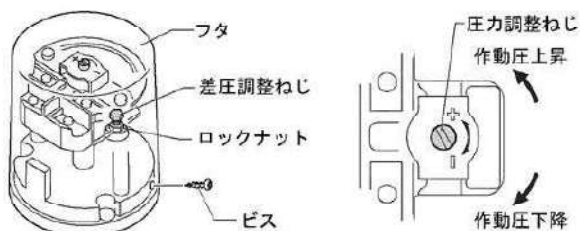
### ●圧力開閉器の設定圧力調整

圧力開閉器の設定圧力が変化した時には、元電源を切ってから 次の要領で調整してください。1度で調整できない場合は、作業を繰り返して実施してください。



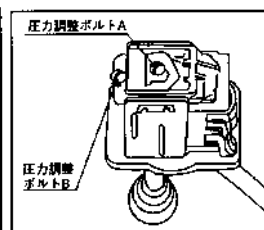
#### ●丸型の圧力開閉器

側面にあるビスをゆるめて蓋を多少回して上に取り外します。図の位置にある調節ねじを回すことで差圧は変化せず作動圧を上下に調節することができます。(圧を下げる⇒時計方向に回す)  
差圧は、差圧調節ねじをロックナットを緩めて時計方向に回すと広げる(+), 反時計方向で狭くする(-) ことができます。調節後はロックナットを締めてください。



#### ●角型の圧力開閉器

	調整内容	調整方法
圧力の 高低調整	最高圧力を高く する場合	圧力調整ボルトA を右に回す
	最高圧力を低く する場合	圧力調整ボルトA を左に回す
圧力の差 (作動圧力 幅)調整	圧力差を広くする 場合	圧力調整ボルトB を左に回す
	圧力差を狭くする 場合	圧力調整ボルトB を右に回す



### 警告

●設定圧力で定められた最高圧力以上に圧力開閉器の設定圧力を調整することはしないでください。  
※本体破損や火災あるいは爆発事故の原因となります。故障の際には、保証の対象外となります。



圧力の上方への変更を禁止する。

# 故障かな？と思ったら

- 万一異常が起こった場合には、まず、お客様にて下表を参考にして点検してください。  
原因が特定できない場合、原因が特定できてお客様では対応が難しい場合は、お手数ですが、  
お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご相談ください。

症状	原因	対応方法
始動しない 又は始動しても 電動機がうなる	元電源が入っていない。	元電源を入れる。
	タンクに圧が有り圧力開閉器が作動している。	空気タンクの圧力を下げ、始動を確認する。 (作動圧力についてはP25を参照)
	運転スイッチがOFFになっている。	運転スイッチをONにする。
	元電源のヒューズが切れている。 または、ブレーカーダウンしている。	症状の『元電源のヒューズ切れ・ブレーカーダウンが発生する』の項を参考に異常のないことを確認しヒューズの交換またはブレーカーを入れなおす。
	電磁開閉器のサーマルリレーが作動している。	サーマルリレーのリセットボタン（ブルーのボタン）を押して解除する。
	電源コードが切断している。	電源コードを交換する。
	電源コードが外れている。 結線場所が間違っている。	P19を参照し、配線を直す。(P38の回路図通りの配線となっているか確認して直す)
	単相運転となっている。	電源コード・電動機コードを確認し、ネジの緩みや配線を直す、または、交換する。
サーマルリレーが 頻繁に作動する	電圧が低い。 (起動時の電圧降下が大きい)	P19を参照し、電源コードの太さを確認し、規定より細い場合は交換する。 電源電圧/電圧降下を測る。*注意1. 参照電源の容量を確認する。容量が足りない場合は、電力会社に相談する。
	圧縮機の周囲温度が高い。 (P16の「設置場所」を参照)	圧縮機が設置されている部屋を換気する。 サーマルリレーの設定値を5%だけ上げる。
	電圧が低い。 (起動時の電圧降下が大きい)	『始動しない』の『電圧が低い』の対応方法参照。
元電源のヒューズ 切れ・ブレーカー ダウンが発生する	運転スイッチが途中で止まっている。	運転スイッチをON、OFFの位置一杯まで回す。(P20の「試運転」を参照)
	元電源のヒューズ・ブレーカーの容量が足りない。	P19を参照し、十分な容量のヒューズ・ブレーカーに交換する。
制御圧力上限に 達する前に 停止する	電源コードの破損等によるショートが発生した。	電源コードの状態と結線を確認する。 破損していれば交換する。
	圧力開閉器が狂っている。	お買い求めの販売店または当社支店・営業所 にご連絡ください。 *注意2. 参照
安全弁が吹く	圧力計が故障している。	お買い求めの販売店または当社支店・営業所 にご連絡ください。 *注意2. 参照
	圧力開閉器が狂っている。	お買い求めの販売店または当社支店・営業所 にご連絡ください。 *注意2. 参照
	安全弁の吹き出し圧が狂っている。	お買い求めの販売店または当社支店・営業所 にご連絡ください。 *注意2. 参照
	電源コードの接続位置が間違っている。	P19を参照して、電源コードを電磁開閉器の端子(L1・L2・L3)に接続する。

# 故障かな？と思ったら

症状	原因	対策
圧力が上がらない 又は 圧力上昇に 時間がかかる (充填時間を 確認して 範囲外の場合)	ドレンバルブまたは使用しない止め弁の締めを忘れている。	締め直す。 締めても漏れる場合は、交換する。
	設備配管から漏れている。	漏えい部を修理する。
	各部の継ぎ手ねじ部から漏れている。	締め直す。
	吸込口フィルタが目づまりしている。	フィルタの清掃又は交換する。
	ベルトがスリップしている。	ベルトの再張りをする。 ベルトの傷みが酷いときは交換する。
	安全弁から漏れている。 (安全弁のシート部分からの漏れ)	お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。 *注意2. 参照
異常振動 又は 異常音がある	据付に不良がある。	取扱説明書の設置方法に従い水平に据付ける (車輪の下に敷物をする)
	部品の取り付けにゆるみがある	部品取付ねじの締め直しをする。
手動ドレンバルブ から水も空気も 出ない	ドレンパイプ・ドレンバルブがつまっている。	ドレンパイプ・ドレンバルブを点検・清掃をする。 *注意2. 参照
	タンク・ドレン配管の内部が凍結している。	暖めて解凍する。 設置環境を確認する。

注意 1. 電圧を測定する場合は、感電に十分に注意して事故のないように測定してください。

注意 2. 作業前に必ず運転スイッチと元電源を切り、タンク内の圧力を完全に抜いてください。

# 第二種圧力容器点検記録

注) 記録用紙が満杯になった場合は、同内容の記録票を作成し、引き続き記録してください。

点検年月日 西暦 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状 態	異 常	状 態 と 措 置		
		良 否	有 無			
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

点検年月日 西暦 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状 態	異 常	状 態 と 措 置		
		良 否	有 無			
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

点検年月日 西暦 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状 態	異 常	状 態 と 措 置		
		良 否	有 無			
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

点検年月日 西暦 年 月 日		点検者氏名				事業者印
点検項目及び点検事項		状 態	異 常	状 態 と 措 置		
		良 否	有 無			
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふ た						
管及び弁の損傷						

# 法律による届出

圧縮機の設置・使用に際しては、安全および公害対策上、法律の適用をうけます。  
このため各種の届出、規制基準の遵守義務が生じます。

## ■労働安全衛生法に基づくもの

### ● 圧力容器安全規制

#### 定期自主検査

- ・ 使用者は毎年1回以上次の事項について定期自主検査を行い、その結果を記録し、3年間保管しておくこと。

- ① 空気タンク本体の損傷の有無。
- ② ふたの締め付けボルトの摩耗の有無・・・ふたの無い構造もあります。
- ③ 管および弁(ボールバルブ、安全弁)の損傷の有無。

空気タンクの第二種圧力容器明細書は再発行できません。大切に保管してください。

## ■騒音規制および振動規制法に基づくもの

### ● 騒音規制法および振動規制法による設置届

- (1) 圧縮機で駆動定格出力7.5kW以上のものは、条例によって定められた指定地域にあつては特定施設として届出が必要です。

なお各都道府県により基準が異なりますので工場、事業所の所在地の区、市役所および町村役場の公害担当窓口で確認してください。

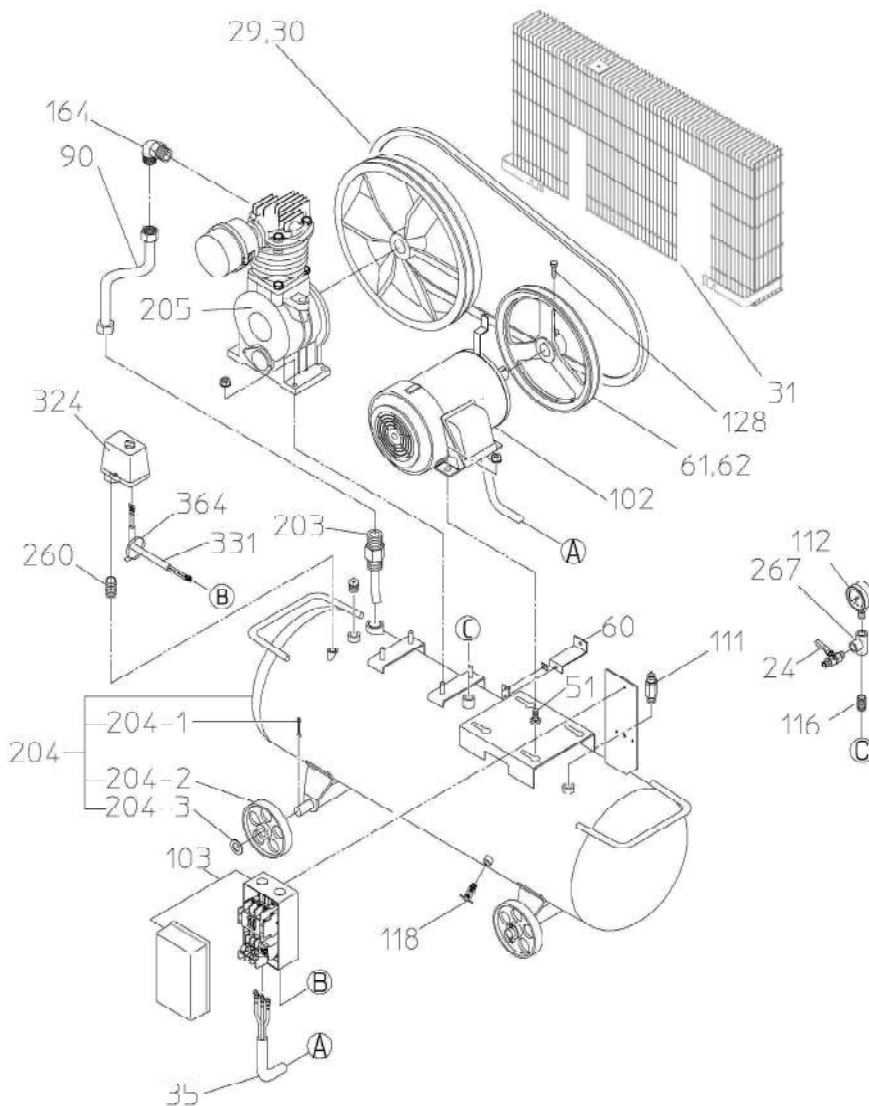
届出	・ 新設届（新しく設置しようとする場合） ・ 数などの変更届（コンプレッサの台数および種類を変更する場合） ・ 騒音防止方法変更届（発生騒音の防止方法を変更する場合）
届出期日	・ 設置（変更）の工事開始の30日前に届け出る
届出場所	・ 工事、事業場の所在する区、市役所および町村役場の公害担当窓口

# 立体分解図

## 圧縮機

### 仕様

形式	TFP15CF-10
圧縮機本体形式	F15P-10
圧縮機運転制御方式	圧力開閉器制御
出力 kW	1.5
回転速度 min <sup>-1</sup>	1240
吐出し空気量 L/min	160
吐出し圧力 MPa	1.0
空気タンク容量 L	65
空気出口管径	1/4 (ボールバルブ) おねじ
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	940×380×830
質量 kg	75
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	74



### 部品表

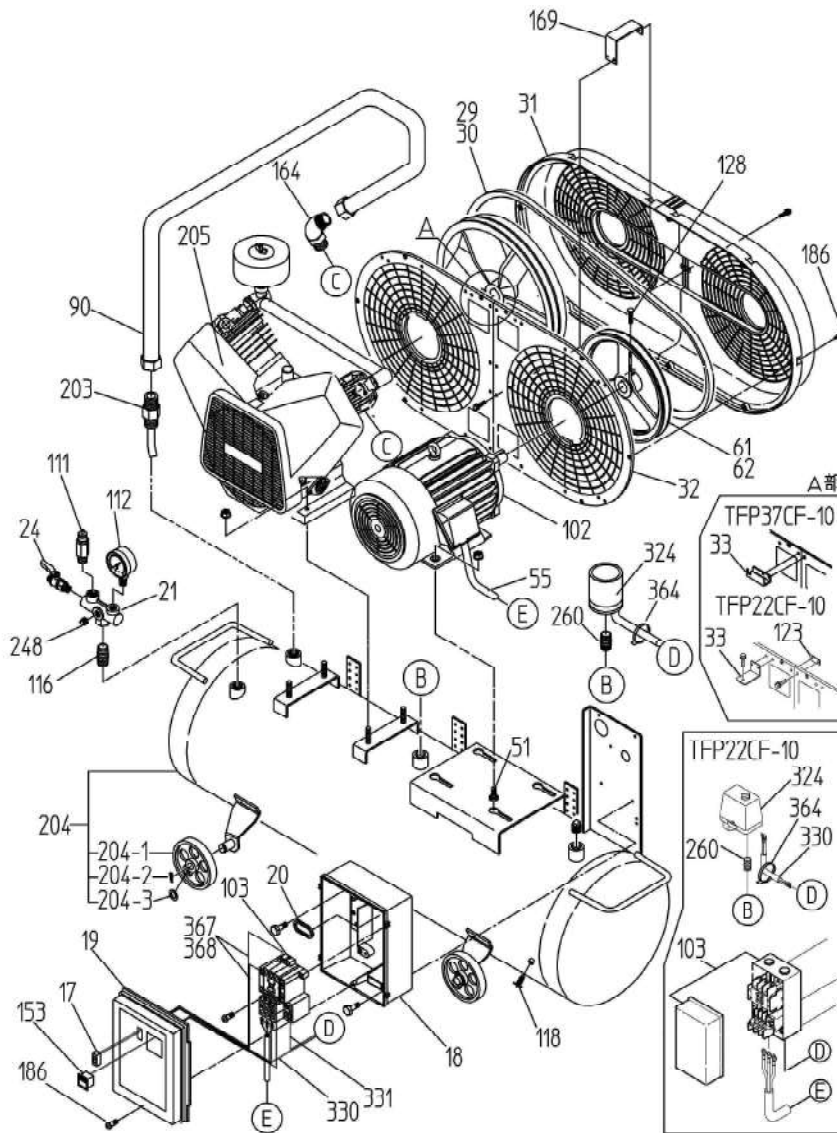
番号	部品名	個数
24	ボールバルブ	1
※29	Vベルト (50Hz)	1
※30	Vベルト (60Hz)	1
31	ベルトガード	1
35	電動機コード	1
51	ボルト	4
60	ガードステー	1
61	電動機プリー (50Hz)	1
62	電動機プリー (60Hz)	1
90	接続管セット	1
102	電動機	1
※103	電磁開閉器	1
111	安全弁	1
※112	圧力計	1
116	径違いニップル	1
118	ドレンバルブ	1
128	高力六角ボルト	1
164	特殊エルボ	1
203	ジョイントセット	1
204	空気タンクセット	1
204-1	ピン	4
204-2	車輪	4
204-3	座金	4
205	圧縮機本体	1
260	パレルニップル	1
267	チー	1
※324	圧力開閉器	1
331	圧力開閉器コード	2
※364	結束バンド	1
※の部品は消耗部品です		

# 立体分解図

## 圧縮機

### 仕様

形式	①TFP22CF-10	②TFP37CF-10
圧縮機本体形式	F22BP-10	F37BP-10
圧縮機運転制御方式	圧力開閉器制御	
出力 kW	2.2	3.7
回転速度 min <sup>-1</sup>	1025	1050
吐出し空気量 L/min	235	370
吐出し圧力 MPa	1.0	
空気タンク容量 L	75	100
空気出口管径	1/4 (ボールバルブ) ×1 3/8 (プラグ) ×1	3/8 (ボールバルブ) ×1 1/4 (プラグ) ×1
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	1150×425×875	1400×430×940
質量 kg	100	130
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	74	78



### 部品表

番号	部品名	個数	
		①	②
17	運転スイッチ	0	1
18	電装箱	0	1
19	電装箱蓋	0	1
※20	膜付グロメット	0	1
21	分岐ジョイント	1	1
24	ボールバルブ	1	1
※29	Vベルト (50Hz)	1	1
※30	Vベルト (60Hz)	1	1
31	ベルトガード (1)	2	2
32	ベルトガード (2)	2	2
33	ガード吊りステー	1	1
51	ボルト	4	4
55	電動機コード	1	1
61	電動機プーリ (50Hz)	1	1
62	電動機プーリ (60Hz)	1	1
90	接続管セット	1	1
102	電動機	1	1
※103	電磁開閉器	1	1
111	安全弁	1	1
※112	圧力計	1	1
116	バレルニップル	1	1
118	ドレンバルブ	1	1
123	ガード押さえ板	1	0
128	高力六角ボルト	1	1
153	時間計	0	1
164	特殊エルボ	1	1
169	ガード押さえステー	1	1
186	タッピンネジ	10	12
203	ジョイントセット	1	1
204	空気タンクセット	1	1
204-1	車輪	4	4
204-2	ピン	4	4
204-3	座金	4	4
205	圧縮機本体	1	1
248	プラグ	1	1
	バレルニップル	0	1
260	径違いニップル	1	0
※324	圧力開閉器	1	1
330	圧力開閉器コード1	2	1
331	圧力開閉器コード2	0	1
※364	結束バンド	1	1
367	運転スイッチコード1	0	1
368	運転スイッチコード2	0	1

※の部品は消耗部品です



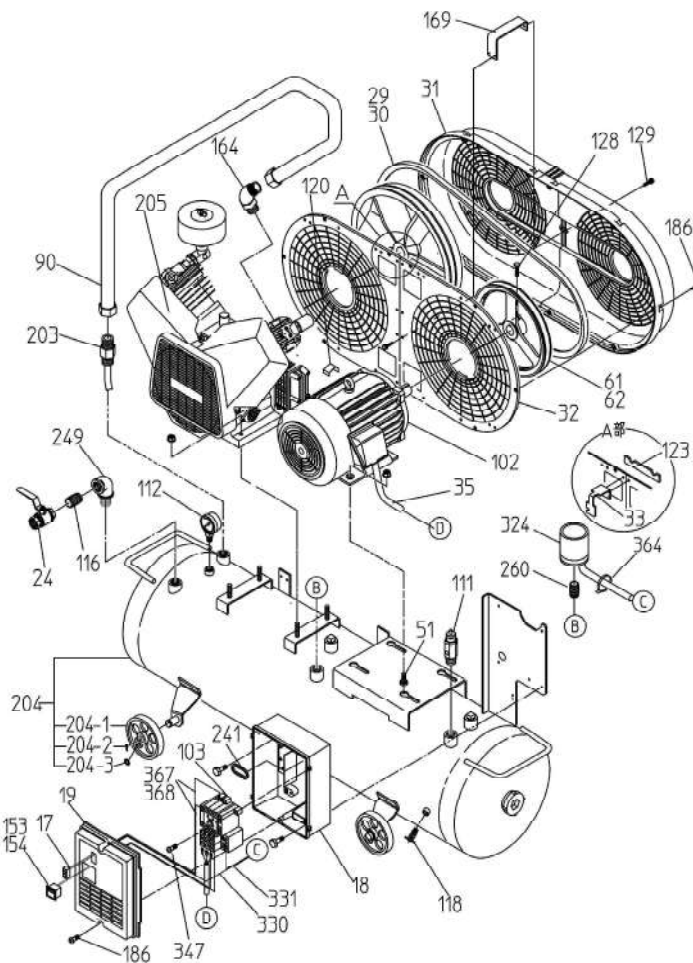
# 立体分解図

## 圧縮機

### 仕様

形式	TFP55CF-10
圧縮機本体形式	F55P-10
圧縮機運転制御方式	圧力開閉器制御
出力 kW	5.5
回転速度 min <sup>-1</sup>	940
吐出し空気量 L/min	580
吐出し圧力 MPa	1.0
空気タンク容量 L	155
空気出口管径	3/4 (ボールバルブ) × 1 1/4 (プラグ) × 1
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	1335×560×1080
質量 kg	200
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	78

### 部品表



番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
17	運転スイッチ	1	129	アブセットボルト	12
18	電装箱	1	153	時間計 (50Hz)	1
19	電装箱蓋	1	154	時間計 (60Hz)	1
24	ボールバルブ	1	164	特殊エルボ	1
※29	Vベルト (50Hz)	2	169	ガード押えステー	1
※30	Vベルト (60Hz)	2	186	タッピンねじ	12
31	ベルトガード (1)	2	203	ジョイントセット	1
32	ベルトガード (2)	2	204	空気タンクセット	1
33	ガード吊りステー	1	204-1	車輪	4
35	電動機コード	1	204-2	ワリピン	4
51	ボルト	4	204-3	座金	4
61	電動機ブーリ (50Hz)	1	205	圧縮機本体	1
62	電動機ブーリ (60Hz)	1	※241	膜付グロメット	1
90	接続管セット	1	249	ストリートエルボ	1
102	電動機	1	260	バレルニップル	1
※103	電磁開閉器	1	※324	圧力開閉器	1
111	安全弁	1	330	圧力開閉器コード1	1
※112	圧力計	1	331	圧力開閉器コード2	1
116	バレルニップル	1	347	タッピンネジ	2
118	ドレンバルブ	1	※364	結束バンド	2
120	ガード支持金具	1	367	運転スイッチコード1	1
123	ガード押さえ板	1	368	運転スイッチコード2	1
128	高力六角ボルト	1			

※の部品は、消耗品です。

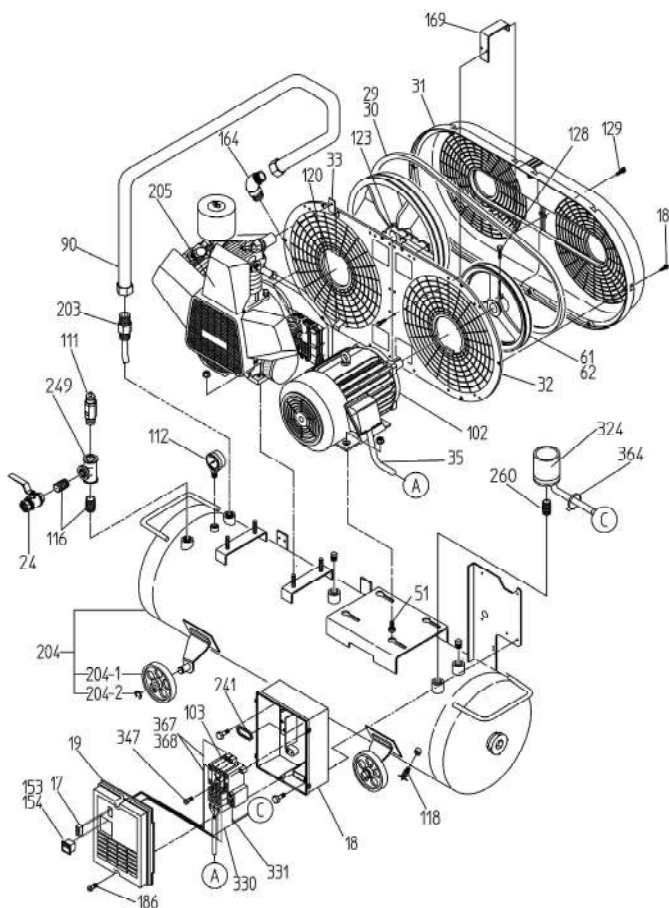
# 立体分解図

## 圧縮機

### 仕様

形式	TFP75CF-10	TFP110CF-10
圧縮機本体形式	F75P-14	F110P-14
圧縮機運転制御方式	圧力開閉器制御	
出力 kW	7.5	11
回転速度 min <sup>-1</sup>	960	1100
吐出し空気量 L/min	825	1200
吐出し圧力 MPa	1.0	1.0
空気タンク容量 L	180	200
空気出口管径	3/4 (ボールバルブ) × 1	1/4 (プラグ) × 1
外形寸法 mm (幅×奥行×高さ)	1535×585×1070	1685×640×1075
質量 kg	245	290
騒音値 dB(A) 正面 1.5m	79	82

### 部品表



番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
17	運転スイッチ	1	128	高力六角ボルト	1
18	電装箱	1	129	アブセットボルト	12
19	電装箱蓋	1	153	時計計 (50Hz)	1
24	ボールバルブ	1	154	時計計 (60Hz)	1
※29	Vベルト (50Hz)	2	164	特殊エルボ	1
※30	Vベルト (60Hz)	2	169	ガード押えステー	1
31	ベルトガード (1)	2	186	タッピンねじ	12
32	ベルトガード (2)	2	203	ジョイントセット	1
33	ガード吊りステー	1	204	空気タンクセット	1
35	電動機コード	1	204-1	車輪	4
51	ボルト	4	204-2	E形止め輪	4
61	電動機プーリ (50Hz)	1	205	圧縮機本体	1
62	電動機プーリ (60Hz)	1	※241	膜付グロメット	1
90	接続管セット	1	249	チー	1
102	電動機	1	260	バレルニップル	1
※103	電磁開閉器	1	※324	圧力開閉器	1
111	安全弁	1	330	圧力開閉器コード1	1
※112	圧力計	1	331	圧力開閉器コード2	1
116	バレルニップル	2	347	タッピンネジ	2
118	ドレンバルブ	1	※364	結束バンド	1
120	ガード支持金具	1	367	運転スイッチコード1	1
123	ガード押さえ板	1	368	運転スイッチコード2	1

※の部品は、消耗品です。

# 立体分解図

## 圧縮機本体 F15P-10

### ●部品表

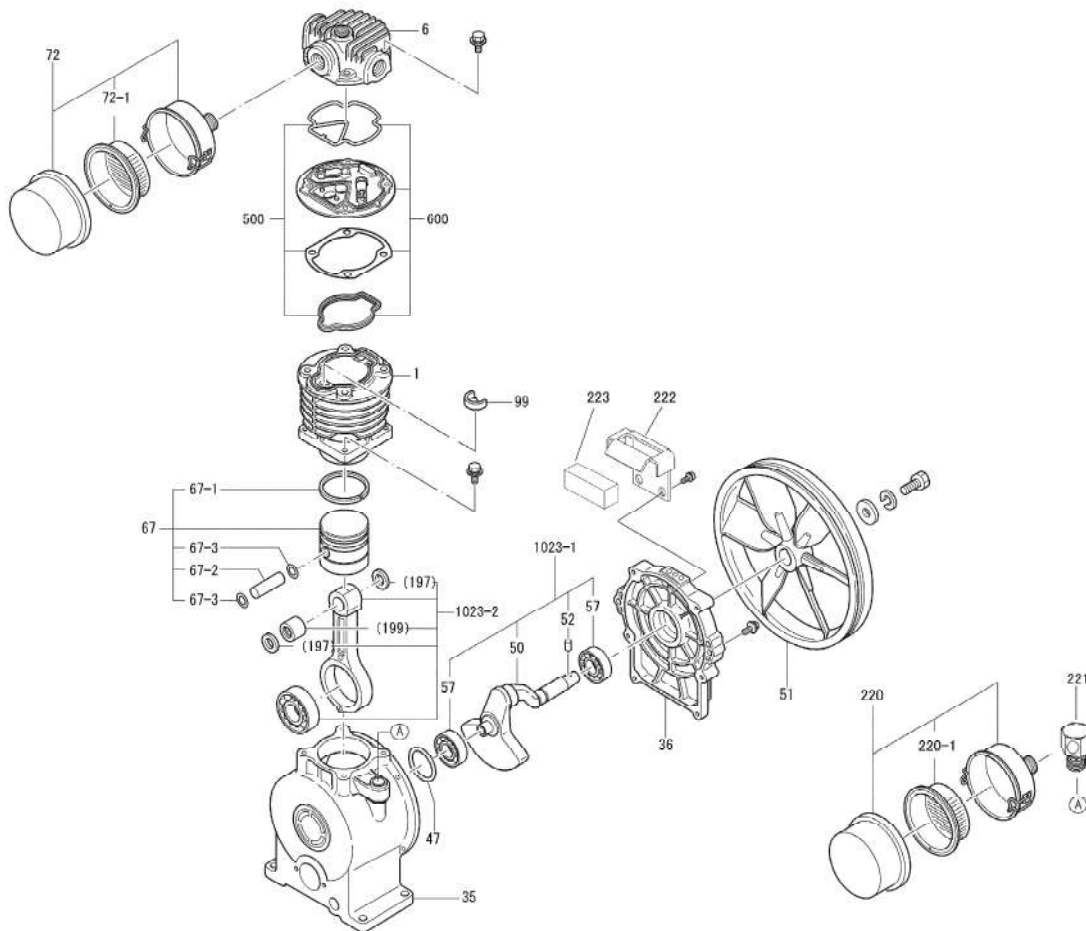
番号	部品名	個数
1	シリンダ	1
6	シリンダカバー	1
35	クランク室	1
36	軸受箱	1
※47	ゴム棒	1
50	クランク軸	1
51	フライホイールプーリ	1
52	平行ピン	1
57	ラジアル玉軸受	2

番号	部品名	個数
67	ピストンセット	1
※67-1	ピストンリング	1
67-2	ピストンピン	1
※67-3	Oリング	2
72	吸込口セット	1
※72-1	フィルタ	1
※99	シート	1
※197	オイルシール	2
199	ニードルベアリング	1

番号	部品名	個数
220	吸込口セット	1
※220-1	フィルタ	1
221	エルボ	1
222	ロソウステー	1
223	ロソウ	1
※500	パッキンセット	1
600	パッキン付弁セット	1
1023	クランク軸セット	1

※印の部品名は消耗品です。

### ●分解図



( ) 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

# 立体分解図

## 圧縮機本体

F 2 2 B P - 1 0

F 3 7 B P - 1 0

### ●部品表

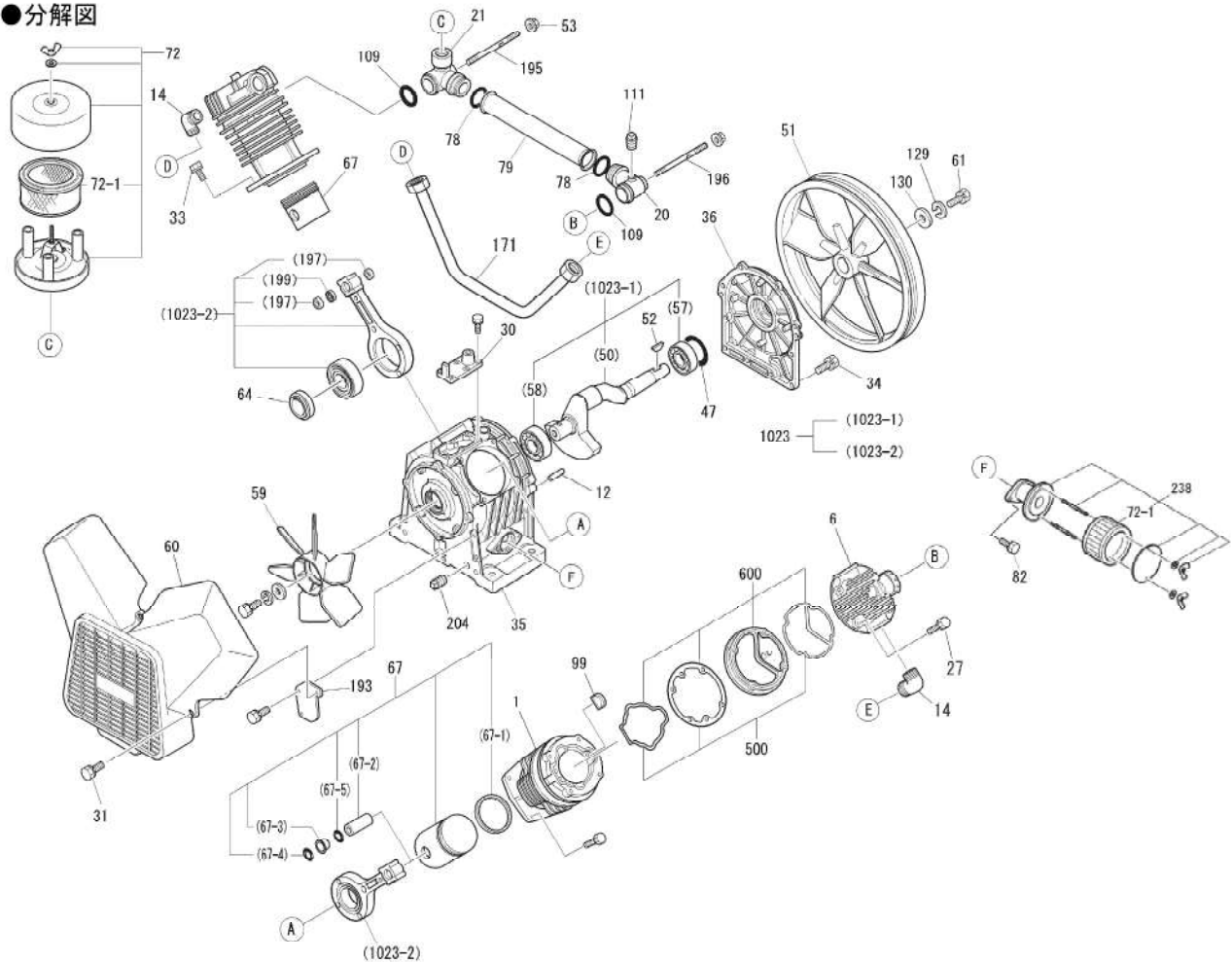
番号	部品名	個数
1	シリンダ	2
6	シリンダカバー	2
12	並行ピン	2
14	特殊エルボ	2
20	吸込ロジョイント(1)	1
21	吸込ロジョイント(2)	1
27	座金組込ボルト	8
30	ブリーザーフランジ	1
31	アプセットボルト	20(13)
33	座金組込ボルト	8
34	座金組込ボルト	8(10)
35	クランク室	1
36	軸受箱	1
47※	Oリング(2.2kW:ゴム棒)	1
50	クランク室	1
51	フライホイールブーリ	1
52	半月キー	1
53	フランジ付六角ナット	2

番号	部品名	個数
57	ラジアル玉軸受	1
58	ラジアル玉軸受	1
59	ファン ※	1
60	本体カバー	1
61	高力六角ボルト	2
64	ベアリングライナー	1
67	ピストンセット	2
67-1	ピストンリング ※	2
67-2	ピストンピン	2
67-3	ピストンピンキャップ※	(4)
67-4	Oリング ※	4
67-5	Oリング ※	(4)
72	吸込ロセット	1
72-1	フィルタ ※	1
78	Oリング ※	2
79	吸込パイプ	1
82	座金組込ネジ	2
99	シート ※	2

番号	部品名	個数
109	Oリング※	2
111	プラグ	1
129	バネ座金	2
130	平座金	2
171	接続管セット	1
193	ファンガード	1
195	ボルト(1)	1
196	ボルト(2)	1
197	オイルシール ※	4
199	ニードルベアリング	2
204	プラグ	1
213	断熱シート ※	2
238	ケースフィルタセット	1
500	パッキンセット※	2
600	パッキン付弁セット	2
1023	クランク軸セット	1

※印の部品名は消耗品です。  
( )内の個数はF37BP-10のものです。

### ●分解図



( ) 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

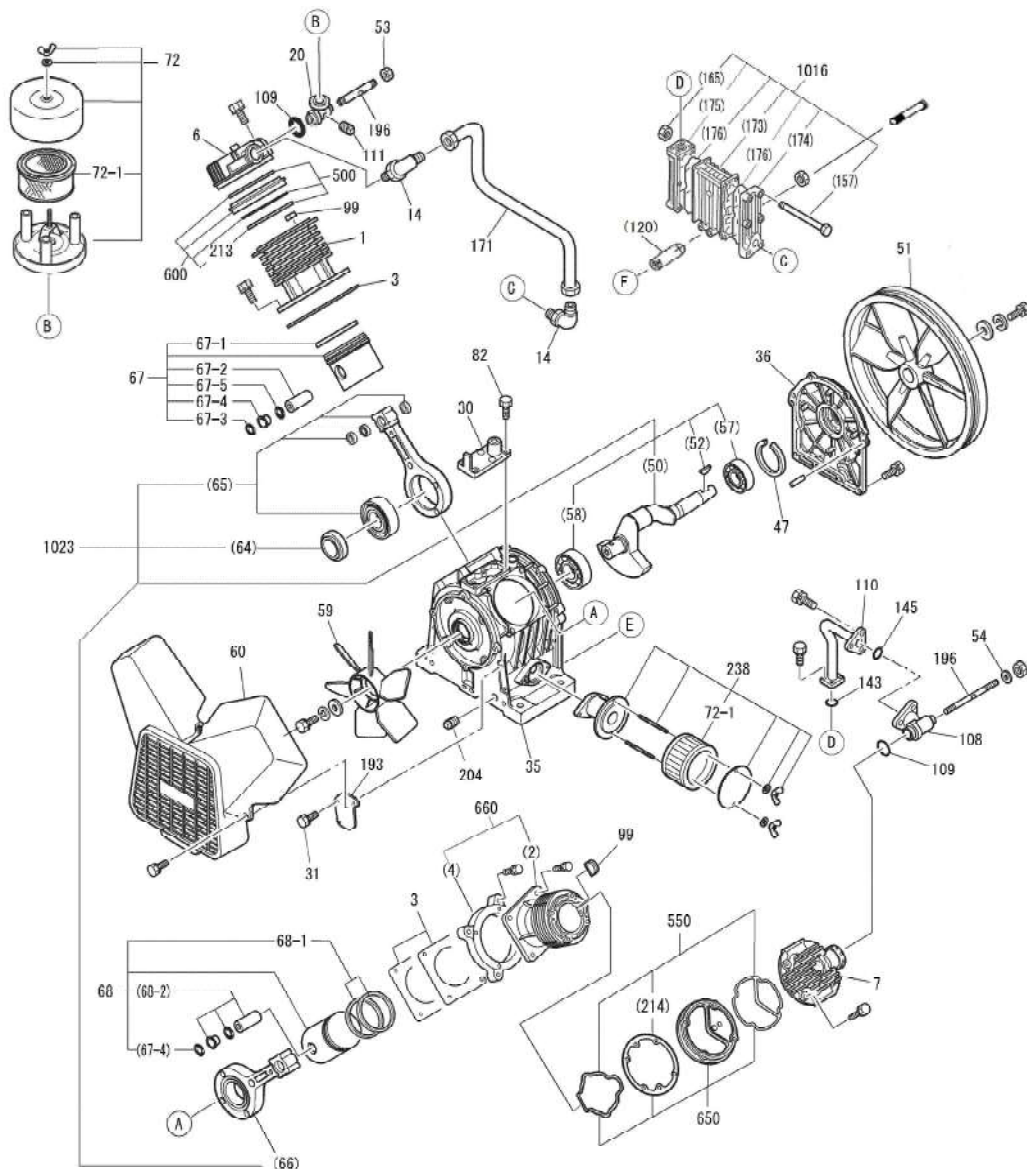
# 立体分解図

## 圧縮機本体 F55P-10

### ●部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ(LP)	1	52	半月キー	1	68-1	ピストンリング(HP) ※	2	193	ファンガード	2
2	シリンダ(HP)	1	54	シール座金 ※	1	68-2	ピストンピン	1	196	ボルト(2)	1
3	ケースライナー	3	57	ラジアル玉軸受	1	72	吸込口セット	1	213	断熱シート ※	1
6	シリンダカバー(LP)	1	58	ラジアル玉軸受	1	72-1	フィルタ ※	1	214	断熱シート ※	1
7	シリンダカバー(HP)	1	59	ファン ※	1	99	シート ※	2	238	ケースフィルタセット	1
14	特殊エルボ	2	60	本体カバー	1	108	冷却器ジョイント	1	500	弁パッキンセット(LP) ※	1
20	吸込口ジョイント(1)	1	67	ピストンセット(LP)	1	109	Oリング ※	2	550	弁パッキンセット(HP) ※	1
30	プリーザフランジ	1	67-1	ピストンリング(LP) ※	1	110	冷却パイプ	1	600	パッキン付弁セット(LP)	1
35	クランク室	1	67-2	ピストンピン	1	120	ボルトセット	2	650	パッキン付弁セット(HP)	1
36	軸受箱	1	67-3	ピストンピンキャップ ※	2	143	Oリング ※	1	1016	冷却器セット	1
47	ゴム棒 ※	1	67-4	Oリング ※	2	145	Oリング ※	1	1023	クランク軸セット	1
50	クランク軸	1	67-5	Oリング ※	2	171	冷却管セット(1)	1			
51	フライホイールプーリ	1	68	ピストンセット(HP)	1	176	冷却器パッキン ※	3			

### ●分解図



( ) 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

# 立体分解図

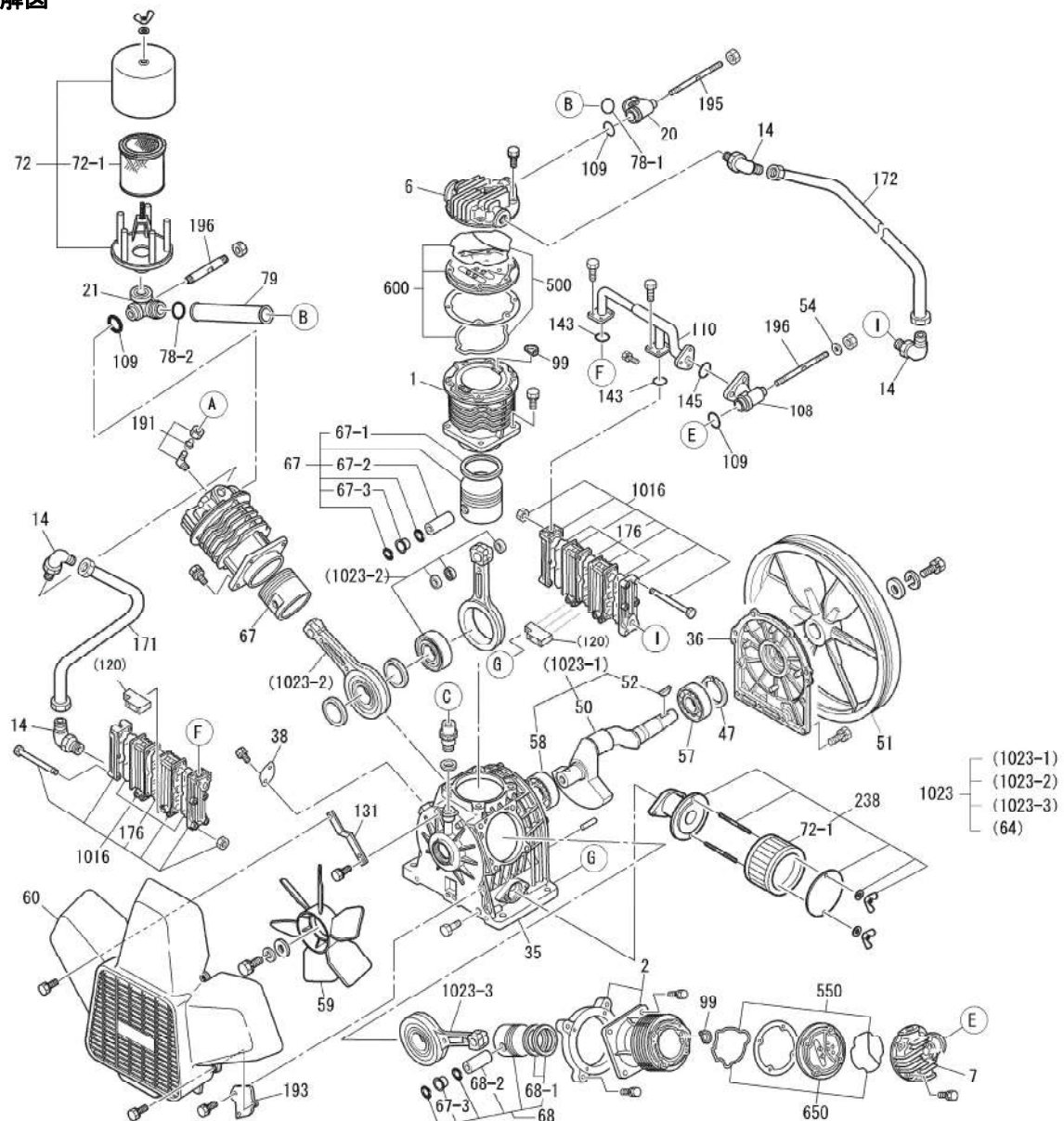
## 圧縮機本体

F 7 5 P - 1 4 F 1 1 0 P - 1 4

### ●部品表

番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数	番号	部品名	個数
1	シリンダ(LP)	2	58	ラジアル玉軸受	1	79	吸込パイプ	1	214	断熱シート※	1
2	シリンダセット(HP)	1	59	ファン※	1	99	シート※	3	238	ケースフィルタセット	1
6	シリンダカバー(LP)	2	60	本体カバー	1	108	冷却器ジョイント	1	500	弁パッキンセット(LP) ※	2
7	シリンダカバー(HP)	1	67	ピストンセット(LP)	2	109	Oリング※	3	550	弁パッキンセット(HP) ※	1
14	特殊エルボ	4	67-1	ピストンリング(LP)※	2	110	集合接続管	1	600	パッキン付弁セット(LP) ※	2
20	吸込口ジョイント(1)	1	67-2	ピストンピン	2	120	クーラ取付ブロッケット	2	650	パッキン付弁セット(HP)	1
21	吸込口ジョイント(2)	1	67-3	ピストンピンキャップ※	4	131	カバーステー	2	1016	冷却器セット	2
35	クランク室	1	67-4	Oリング※	4	143	Oリング※	2	1023	クランク軸セット	1
36	軸受箱	1	67-5	Oリング※	4	145	Oリング※	1			
38	注油口蓋	1	68	ピストンセット(HP)	1	171	冷却管セット(1)	1			
47	ゴム棒※	1	68-1	ピストンリング(HP)※	2	172	冷却管セット(2)	1			
50	クランク軸	1	68-2	ピストンピン	1	176	冷却器パッキン※	6			
51	フライホイールプーリ	1	72	吸込口セット	1	193	ファンガード	2			
52	半月キー	1	72-1	フィルタ※	1	195	ボルト(1)	1			
54	シール座金※	1	78-1	Oリング※	2	196	ボルト(2)	2			
57	ラジアル玉軸受	1	78-2	Oリング※	1	213	断熱シート※	2			

### ●分解図



( ) 部品の供給はセット部品として一括供給致します。

# 回路図

形式

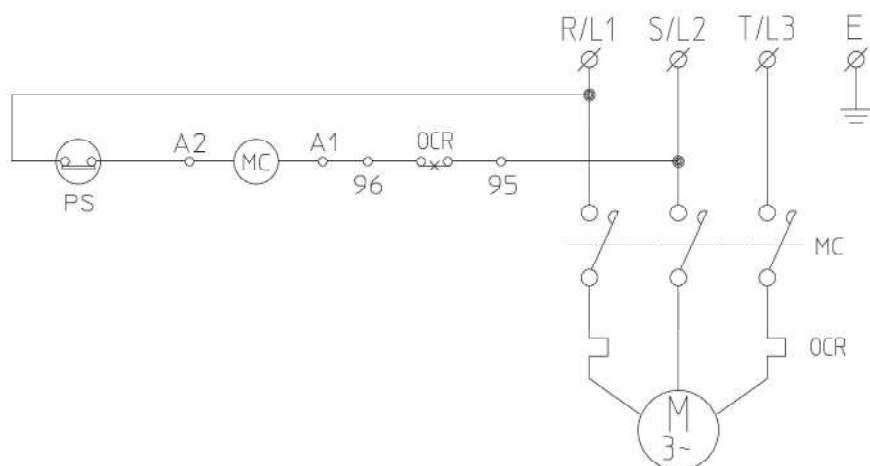
TFP15CF-10

TFP22CF-10

電源仕様 3φ

AC 200V 50/60Hz

AC 220V 60Hz



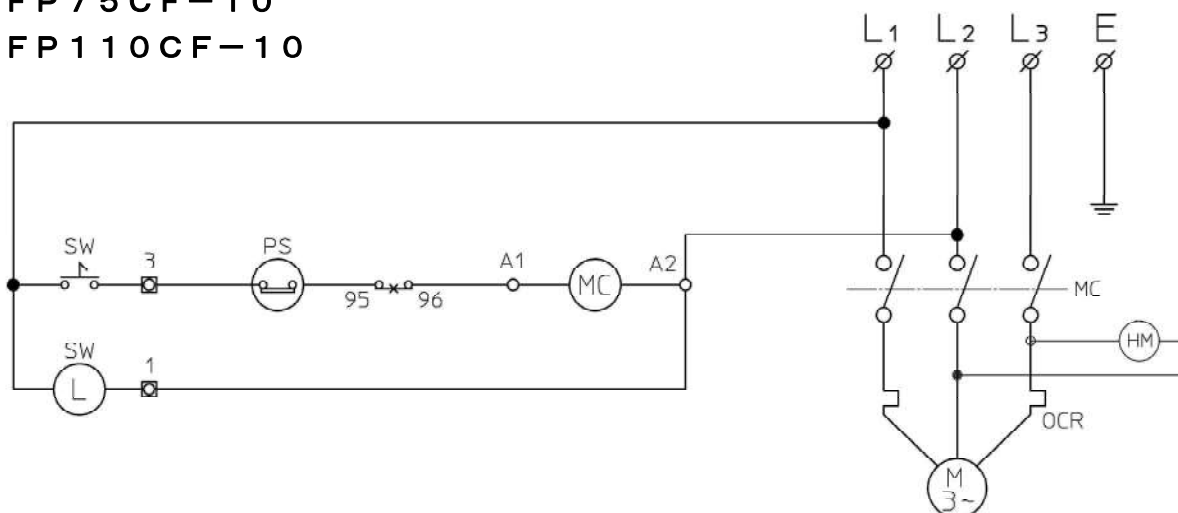
形式

TFP37CF-10

TFP55CF-10

TFP75CF-10

TFP110CF-10



記号	部品名	備考
M	電動機	
MC	電磁開閉器	
OCR	サーマルリレー	電磁開閉器に付属
PS	圧力開閉器	1.5kW と 2.2kW は運転スイッチ内蔵
HR	時間計	3.7kW 以上のみ
SW	運転スイッチ	3.7kW 以上のみ
L	電源ランプ	運転スイッチ内蔵

メモ

---

---



# 保証と修理サービス

## 保証について

### 保証書 (保証規定)

お買い上げの商品を本取扱説明書にしたがって正常のご使用で万一故障が起きましたときは、本保証書の記載内容により無償修理いたします。

形式	品名 圧縮機		
お客様	御社名		
	お名前		
	〒	□□□-□□□□	
	ご住所		
	TEL ( ) -	FAX ( ) -	
保証期間	お買いあげ日 年 月 日から 「1年間」または「2500時間」 のいずれか先に到達した期間を「保証期間」とします。		
販売店	販売店名		
	〒	□□□-□□□□	
	住所		
	TEL ( ) -	FAX ( ) -	

#### ◇無償修理を受けるための条件および手続きと保証範囲

- (1) 本保証書をご提示のうえお買い上げの販売店又は当社支店・営業所にご依頼ください。
- (2) 本保証書に記入した内容（お買い上げ日、販売店）を確認できる納品書等を提示願います。
- (3) 本保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
- (4) 本製品の故障または不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次補償に対する保証は致しません。

#### ◇次の場合は保証期間内でもお客様のご負担（有償）になります。

- (1) 本保証書のご提示が無い場合
- (2) 本保証書にお名前、お買い上げ日、販売店名の記載が無い場合あるいは字句等を書換えられている場合
- (3) 取扱上の不注意・取扱説明書の記載事項を守られなかったことによる故障および損傷
- (4) 消耗品の交換・修理
- (5) 指定外の動力源（電圧、周波数、燃料他）又は天災・地変（火災、地震、水害、塩害、落雷、公害など）による故障および損傷
- (6) 純正部品以外の部品が使用されている場合
- (7) 製品を無断で改造している場合
- (8) 当社指定の修理店以外による修理がなされている場合

#### ◇法的責任

本保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。

従って、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等またはご不明な点はお買い上げの販売店または当社支店・営業所までお問い合わせください。

#### ◇保証書の保管

- 「保証書」は、内容をよくお読みになったうえで、「お客様のお名前・ご住所」、「お買いあげ日」、「販売店」など必要事項については、誠に恐縮ですがお客様にご記入していただき、納品書と共に大切に保管してください。
- 本保証書は紛失されても再発行しませんので、大切に保管してください。

# 保証と修理サービス

## 修理サービスについて


修理を依頼されるときは

- 修理はお買いあげの販売店又は当社支店・営業所にご相談ください。  
このときお買いあげの商品の形式名およびお買いあげの時期をお知らせください。
- 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料にて修理いたします。
- 詳しくはお買いあげの販売店にご相談ください。  
また、その他ご不明な点は当社支店・営業所へお気軽にお問い合わせください。


### お問い合わせ先

➤ 電話でのお問い合わせ

- ・コンプレッサ、窒素ガス発生装置、真空ポンプ、DIY 商品  
に関するお問い合わせ

 **0800-111-9681**

- ・その他、上記以外に関するお問い合わせ

 **0120-917-144**

受付時間： 9:00～12:00/13:00～17:00

但し、土日・祝日・弊社指定休日を除く。

➤ メールでのお問い合わせ

当社ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。



<http://www.anest-iwata.co.jp>

 **アネスト岩田株式会社**

〒223-8501 横浜市港北区新吉田町 3176 番地

01772927  
C021-02